

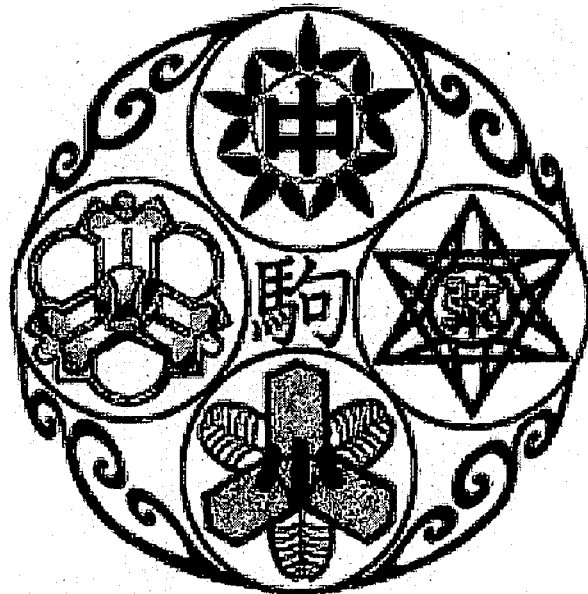
平成24・25年度

世田谷区教育ビジョン推進研究発表開発校

教育の情報化(ICT)

公開授業

# 学習指導案



平成26年 1月24日(金) 第5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校

# 目次

1年A組	技術・家庭（家庭分野）	日常食を調理しよう	P 1～P 4
1年B組	保健体育男子（体育分野）	陸上競技『長距離走』	P 5～P 8
1年B組	保健体育女子（保健分野）	ストレスへの対応	P 9～P 12
1年C組	国語	詩『生きる』を読む	P 13～P 15
1年D組	音楽	日本の伝統音楽に親しもう	P 16～P 19
2年A組	社会	近代社会の成立	P 20～P 23
2年B組	理科	電流とその利用『静電気と電子』	P 24～P 27
2年C組	技術・家庭（技術分野）	エネルギー変換に関する技術	P 28～P 31
2年D組	美術	日本の伝統工芸に学ぶ『螺鈿』	P 32～P 35
3年A組	数学（少人数）	式の計算『文字式による説明』	P 36～P 38
3年B・C組	英語（少人数）基本	Review Reading	P 39～P 41
3年B・C組	英語（少人数）発展	Review Reading	P 42～P 44
聞こえの学級	国語	知識の樹木『音遊び』抄	P 45～P 48

## 第1学年 技術・家庭（家庭分野） 学習指導案

平成26年 1月24日（金）5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
1年A組 計32名  
授業者 小嶋 紗代子

### 1 単元名

日常食の調理をしよう

### 2 単元のねらい

- (1) 調理についての基礎的・基本的な知識及び技術を身に付ける。
- (2) 安全と衛生に気を付けて調理することを理解する。
- (3) 実習への意欲を高め、正しい調理の技能を身に付ける。

### 3 単元の評価基準

- (1) 調理についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得している。
- (2) 日常食と健康な生活について課題を見つけ、その解決をめざして考えをまとめている。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

手軽に調理済み食品を購入できる今日、自ら調理する機会が減ってきている現状がある。生徒が今後、自立した生活を送れるように、家庭で自主的に調理していくことの大切さや、学校において調理実習を行うために必要な知識を理解し、調理の技能の習得に意欲的になるようにしていきたい。

#### (2) 教材観

たいへん身近な食材である野菜の洗い方、切り方の実演と指導を通して、調理についての基礎的・基本的な知識や技術を習得させ、健康な生活を送るための日常食を工夫し、実践していこうとする意欲と態度を育てる。

#### (3) 指導観

「食べること」に興味をもっている生徒が多い。調理実習や家庭での調理を目的とし、また将来にわたり自分の食生活を充実させるためにも、調理の基礎的・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせる。

### 5 単元の指導計画（5時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
3章 調理と食文化  日常食の調理 をしよう	1	<ul style="list-style-type: none"><li>・調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。</li><li>・基礎技能：計量する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・調理して食べることだけが調理実習と考えるのではなく、調理の目的を達成するためには、計画的な調理や実習後の反省も大切だと伝える。</li><li>・日常食の調理に関心をもち、調理実習に意欲的に取り組ませる。</li><li>・調理の目的について理解させる。</li></ul>

基礎技能① 【本時】	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理や対象者に合った野菜の洗い方や切り方について考える。</li> <li>・基礎技能：洗う、切る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り方を理解するだけでなく、調理実習につなげられるようにする。</li> <li>・安全に配慮しながら、調理することの大切さを理解させる。</li> <li>・野菜のいろいろな切り方について理解させる。</li> </ul>
基礎技能②	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に配慮した調理について考える。</li> <li>・基礎技能：加熱する、調味する、盛りつける、後片づけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に配慮しながら、加熱操作をすることができるようにする。</li> <li>・汁物の塩分のみやすについて理解させる。</li> </ul>
作ってみよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習を行う。 (肉の調理、野菜の調理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包丁の取り扱いや加熱不足による食中毒が起こらないように注意する。</li> <li>・肉や野菜の調理上の性質や調理方法について理解させる。</li> </ul>

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.250「基礎的な調理の技能について理解する。(B 食生活と自立 (3) ア )」に沿い、対象者に合わせた食材の切り方について、話し合って考え、表現する活動を行う。

### (2) ICT

野菜の洗い方や切り方の過程を映像で見ることによって理解の深まりを支援し、調理実習の際に自ら取り組むための技能の習得につなげる。

### (3) 小学校とのかかわり

- ①教材 小学校5年生及び、6年生で実施した調理実習の流れと内容について復習する。
- ②教員 小学校で学習した野菜の切り方について補足や助言をしたり、振り返りの学習を支援したりする。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全と衛生に気を付けて調理することの大切さを理解する。(A)</li> <li>・食品の調理上の性質を知り、適切な調理形態について考えたことを発表する。(B)</li> </ul>
活用する ICT	パソコン・デジタル教科書・実物投影機
目標と ICT	・デジタル教科書の動画や実物投影機で実際の調理方法を見ることで、正しい計量器の使い方や野菜の洗い方・切り方について分かりやすくする。
言語活動	・料理や対象者に合った野菜の切り方を考え、発表する。

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	<p>1 本時の目標を理解する。</p> <p>2 調理の流れと手順を復習する。</p>	<p>1 本時の目標を生徒に共通理解させる。</p> <p>2 調理の手順と流れについて説明する。 ・計画→準備→調理→試食→後かたづけ→反省の流れを思い出す。 ・小学校の先生とT・Tで授業を進めていく。</p>	<p>パソコン</p> <p>・調理の流れと手順について、順番に示す。</p>	<p>○計画→準備→調理→試食→後かたづけ→反省の順に調理をしたよ。 ◎日常食の調理に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p>
展開	<p>3 野菜の洗い方について学習する。</p> <p>4 野菜のいろいろな切り方を学習する。</p> <p>5 対象者に合った切り方について考える。 ・班ごとに与えられた対象者について、豚汁の野菜はどのような切り方がよいかを「話し合いカード」を使って話し合い、考える。</p>	<p>3 野菜の洗い方について説明する。 ・野菜の種類や食べ方で洗い方が異なることを確認する。</p> <p>4 野菜のいろいろな切り方について説明する。 ・材料や料理によって切り方を変えることを伝える。</p> <p>5 対象者に合った野菜の切り方についてグループで考えさせる。 ・次の対象者に対し、どのような切り方が適しているかを考え発表させる。 ・発表させるため、話し合ったことをワークシートに記入させる。 <b>対象者</b> ・5歳の幼児 ・食べ盛りの中学生 ・歯を治療中の大人</p>	<p>パソコン</p> <p>・葉物類、根菜類、青菜の洗い方の動画を再生する。</p> <p>実物投影機</p> <p>・野菜のいろいろな切り方を実演する。</p> <p>実物投影機</p> <p>・各班がまとめたプリントを実物投影機に映す。</p>	<p>○野菜はこうやって洗うんだ。 ◎野菜の洗い方について理解する。(知識・理解)</p> <p>○野菜はいろいろな切り方があるんだな。 ○豚汁に入っている大根はいちょう切りだったんだ。 ◎野菜のいろいろな切り方について理解する。(知識・理解)</p> <p>○幼児には、固い野菜は入れないようにする。 ○幼児はまだ小さいので、野菜は小さめに切る。 ○中学生は、食べた感触を出すために、大きく切る。 ○歯を治療中の場合は、噛みにくいから野菜をしっかり柔らかくなるまで煮る。 ◎調理の目的を理解し、対象者にあつた切り方について考え真剣に話し合う。(工夫・創造) ◎発表者の内容に関心をもつ。(関心・意欲・態度)</p>
まとめ	6 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	6 本時の学習の目標について振り返り、自己評価をさせる。	<p>実物投影機</p> <p>・各班がまとめたプリントを映す。</p>	<p>○野菜のいろいろな切り方が分かった。 ○調理をする時は、食べる人のことを考えて、切り方や大きさを変えることが必要なんだと分かった。 ◎ワークシートに意欲的に取り組む。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の正しい洗い方を理解できたか。(A)</li> <li>・野菜のいろいろな切り方について理解できたか。(A)</li> <li>・野菜の切り方が料理の見た目や味、食感に大きく影響することなどをまとめ、発表することができたか。(B)</li> </ul>			

8 板書とICT計画

〔映し出すもの・作業〕

- デジタル教科書 野菜の洗い方（動画）
- 実物投影機 野菜の切り方 実演
- デジタル教科書

野菜のいろいろな切り方

- 各班の発表原稿

TV・電子黒板

〔板書計画〕

野菜の洗い方

野菜のいろいろな切り方

- ・安全と衛生の大切さを知る。
- ・適切な調理形態について考えたことを発表する。

〔洗い方〕

レタス・キャベツ  
→1枚ずつ流水で洗う。  
生で食べる場合は特に丁寧に洗う。

ごぼう・いも  
→たわしで表面の土をよく洗い落とす。

青菜  
→根本を広げるようにして残っている土などを洗い流す。

切り方

```

    graph TD
      A[輪切り] --> B[半月切り]
      B --> C[いちょう切り]
      B --> D[千切り]
  
```

大根 }  
人参 }

小口切り・・・長ネギ  
くし形切り・・・レモン・トマト  
乱切り・・・人参・大根・ごぼう  
ささがき・・・ごぼう

黒板

〔映し出すもの・作業〕

- 
- 
- 

タブレット型PC

## 第1学年 保健体育（体育分野） 学習指導案

平成26年 1月24日（金）5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
1年B組 男子計18名  
授業者 柴田 康正・青木 淳

### 1 単元名

陸上競技（長距離走）

### 2 単元のねらい

- (1) 陸上競技（長距離）の特性に関心をもち、意欲的に参加する。
- (2) 自己の能力に適した課題をもち、その解決を目指して練習や競技の仕方を工夫する。
- (3) 種目の特性に応じた技能を身に付けるとともに、その技能を十分に発揮する。
- (4) 種目の特性、合理的な運動の仕方、競技方法やルールなどを理解する。

### 3 単元の評価基準

- (1) 記録の向上をめざして最後まで諦めずに走りきろうとする意欲がある。
- (2) 自己の能力を分析し、それに適した課題を設定することができる。
- (3) スピードを維持できるペースを守って走ることができる。
- (4) 長距離走の特性と必要な技能、効果的な練習方法等を理解している。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

生徒の多くは、長距離走を体育の単元として取り組んだ経験が少ない。1学期に実施した体力テストの1500m走では、ペースを守って走ることができず、ラップタイムのばらつきが目立った。体育の授業には意欲的でまじめに取り組む生徒が多い。そこで、各生徒の課題を明確にして練習に取り組ませることで、技能を高め、充実感を得ることができるように授業を進めていく。

#### (2) 教材観

長距離走は、自己に適したペースを維持して一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりする競技である。長い距離を走るためには、無駄な力を抜いた軽快な走り方を身に付けるとともに、自己に適したペースを理解しなければならない。そのためには、走り方やペース配分による体の状態の変化を知り、走り方やペースを工夫しながら、粘り強く長距離走の練習に取り組むことが必要である。また、長距離走は個人競技であり、個人の努力がそのまま自分の記録につながるため、目標をもたせやすい反面、苦しさに伴うため安易なあきらめにつながる場面も多い。そこで、ペア学習やグループワークなどの「学び合い・教え合い」を行うことで、自他の目標達成に向けて粘り強く取り組ませ、長距離走の特性に応じた技能の習得をめざす。

#### (3) 指導観

長距離走の学習では、他の人とかかわり合いながら楽しく体を動かすことのできる運動を取り入れたり、心拍数を基にして自分の力に応じたペースで練習し、長距離走の練習方法への理解を深めるとともに、個に応じた練習計画を作成したりして、学習の見通しをもちながら活動できるようにすることが大切である。このことにより、生徒は、楽しみながら運動を行い、走ることに對する抵抗感を解消し、意欲をもって長距離走の学習に取り組んだり、自分の力に応じた練習を行ったりすることで、学習に対する意欲を持続させ、走力を効果的に高めることができる。

## 5 単元の指導計画（6時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
オリエンテーション	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の課題・目標の確認</li> <li>ペアジョグ・グループジョグ・まねっこジョグ</li> <li>心拍数計測方法の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長距離走への抵抗感をなくすため友達とかかわりながら楽しく走る雰囲気をつくる。</li> <li>学習カードに記入する。</li> </ul>
自分に合った走り方を身につける	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピッチ&amp;ストライド走</li> <li>5分間走</li> <li>ビデオ撮影</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長距離を走りぬくためにはスムーズで力みのないフォームが大切であることを理解させる。</li> <li>学習カードに記入する。</li> </ul>
自分に合った走り方とペースを身につける【本時】	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ視聴</li> <li>ピッチ&amp;ストライド走</li> <li>750mタイムトライアル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力に合った走り方を選択させ、750mを一定のペースで走りきらせる。</li> <li>学習カードに記録を記入する。</li> </ul>
仲間と協力して長距離を走る	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>駒中駅伝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーの走力を考え、チームで協力して記録の向上を目指す。</li> <li>学習カードに記入する。</li> </ul>
走りこみ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ走</li> <li>インターバル走</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムの近い生徒でグループをつくり、互いに協力しあいながら練習を進めていく。</li> <li>学習カードに記入する。</li> </ul>
1500m記録会	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1500m記録計測</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の目標達成に向けて全力で取り組みさせる。</li> <li>学習カードに記録を記入する。</li> </ul>

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.224「自己の課題に応じた学習を進められるように、合理的なフォームや技能を身に付けるためのポイントや練習方法などについて、話し合ったり考えたりする」に沿って、「歩幅と腕振り動作」についての話し合い活動を行う。

### (2) ICT

世田谷区教育要領 P.225「長距離走では、リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に自己に適したペースを高めるように取り組む」に沿い、自己のフォームを客観的に把握して理想的なフォームに近づけるために、ビデオカメラを使用する。

### (3) 小学校とのかかわり

①教材 小学校では、体づくり運動の単元において、5分間でどこまで走ることができるかに挑戦するなどの時間走を行っている。この経験を取り上げて想起させ、本単元への導入を円滑にする。

②教員 本時では2人1組でペアをつくるので、2ペアに小学校教員や体育担当教員が一人ずつ付いて、750mタイムトライアル時の記録設定やペースについてのアドバイスをを行う。

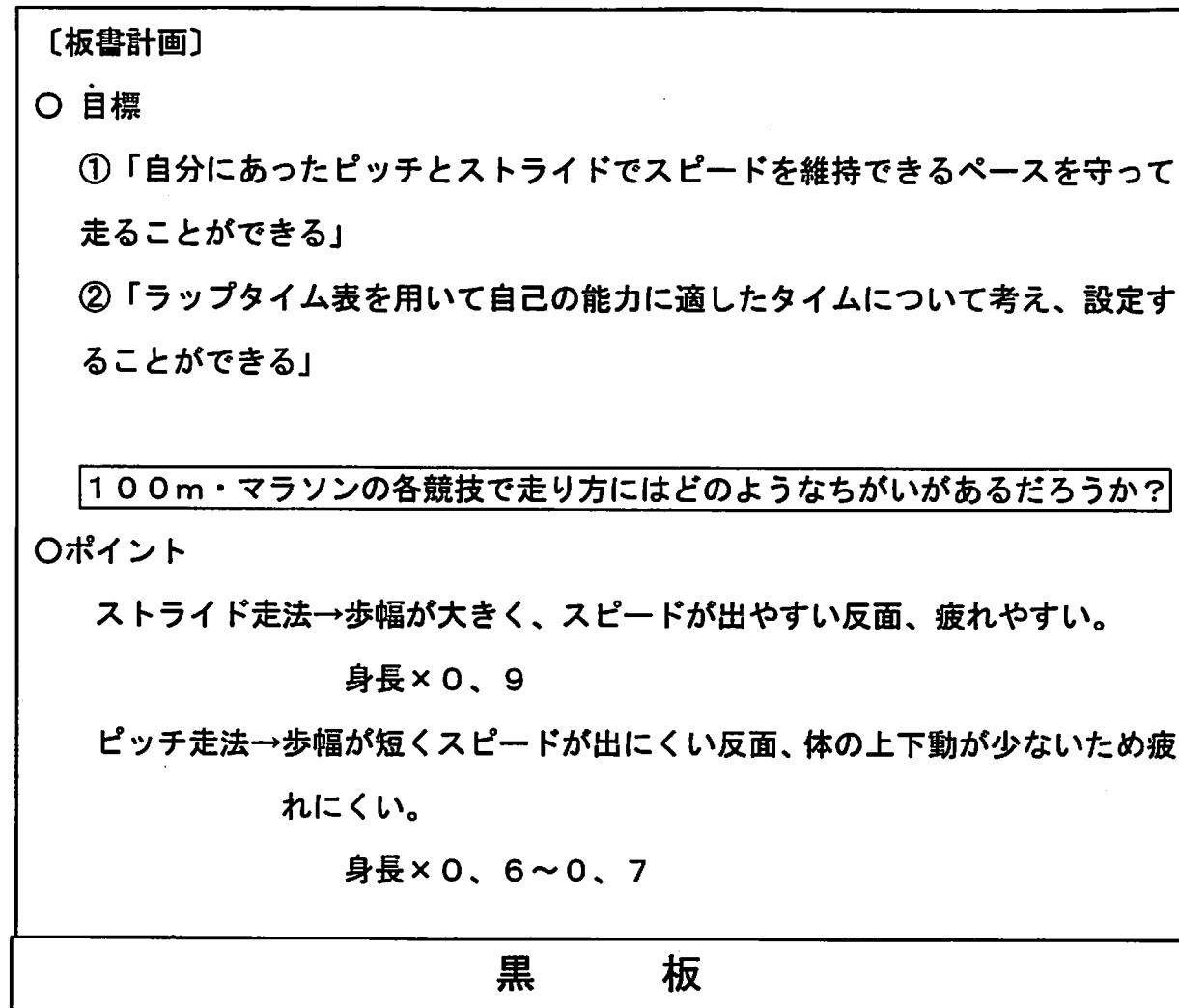
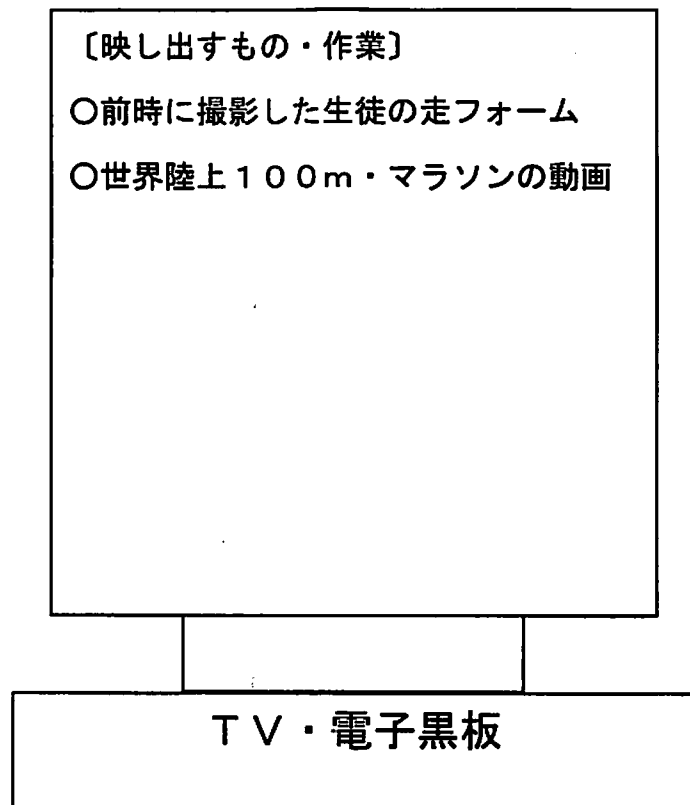


## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にあつたピッチとストライドでスピードを維持できるペースを守って走ることができる。(A)</li> <li>・ラップタイム表を用いて自己の能力に適したタイムについて考え、設定することができる。(B)</li> </ul>
活用するICT	<p style="text-align: center;">A <b>基礎的・基本的な知識・技能</b>      B <b>思考力・判断力・表現力等</b>      C 主体的に学習する態度</p>
目録とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストライドの幅・ピッチ・腕振りがスムーズに無理なく行えているかについて、ビデオを用いて確認することで、効率的なフォームを身に付ける支援をする。(A)</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラップタイム表を記入することで、自己に適したペース配分を考えさせる。(B)</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	<p>1 整列・あいさつ・出欠席の確認をする。</p> <p>2 本時の目標を理解する。</p>	<p>1 4列横隊で整列し挨拶する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点呼されたら返事をする。</li> </ul> <p>2 本時の目標を生徒に共通理解させる。</p>		<p>◎時間を守り授業の準備を率先して行っている。(関心・意欲・態度)</p> <p>◎本時の課題を理解している。(知識・理解)</p>
展開	<p>3 ビデオ視聴および話し合い活動を行う。</p> <p>4 準備運動</p> <p>5 ピッチ走 &amp; ストライド走</p> <p>6 150mタイム計測 &amp; 目標の設定</p> <p>7 750mタイム計測</p>	<p>3 撮影した画像を観る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで「歩幅と腕振り」について話し合いをする。</li> <li>・腕の振りと足の運びのリズムに着目させる。</li> <li>・ストライドで走る→スピードが出やすい反面疲れやすい</li> <li>・ピッチで走る→スピードが出にくい反面、体の上下動が少ないため疲れにくい。</li> </ul> <p>4 十分に体をほぐさせる。</p> <p>5 150mのトラックを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームストレート側に約1.5mの間隔でラインを引き、バックストレート側に約1.1mの間隔でラインを引く。ラインに合わせて走り抜け、気持ち良く走れるピッチとストライドを見つける。</li> </ul> <p>6 ピッチ走・ストライド走を1周ずつ計測する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアを組み1人が計測・記録を行う。ペアのアドバイスと走った感覚をもとに走り方及び750m走の目標タイムを決める。</li> </ul> <p>7 ペアのうち1人が計測と記録、1人が750mを走る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアはラップタイム表を参考にアドバイスをし3で話し合い内容を再思考させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>投影機能付き ビデオカメラ</p> </div> <p>・ストライドの幅、ピッチ、腕振りがスムーズで無理なく行えているかを、客観的に把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的なフォームの走りを見ることで、望ましいフォームのイメージをもたせる。</li> </ul>	<p>◎効率的なフォームのポイントを学習カードに書き込んでいる。(思考・判断・表現)</p> <p>◎ピッチ、ストライドなどの用語を正しく理解して使うことができている。(知識・理解)</p> <p>○こんな走り方をしていたんだ。</p> <p>○自分のフォームはこんななんだ。</p> <p>○どこに注目すればいいんですか？</p> <p>○自分の課題は足の運びのリズムかな。</p> <p>◎怪我や事故を防止するため体調確認や準備運動を行っている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○ストライド走ってこんなに歩幅がひろいんだ。</p> <p>○ピッチで走るには腕を速く振ることが大切なんだ。</p> <p>○ピッチ走とストライド走のちがいが分かってきたぞ。</p> <p>◎ラインに歩幅をしっかりと合わせている。(関心・意欲・態度)(技能)</p> <p>◎各走法に適した腕の振りが出来ている。(思考・判断・表現)(技能)</p> <p>◎自己の能力に適した目標記録を設定している。(思考・判断・表現)</p> <p>○がんばれー。あと3週。</p> <p>○ペース落ちてきてる。5秒遅れ。</p> <p>○ペアに積極的にアドバイスをする</p> <p>◎ラップタイムや周回数をペアに伝えている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○もう少し目標タイムを速く設定してもよかったかもしれないな。</p> <p>◎ペアとアドバイスをし合っている。(関心・意欲・態度)</p> <p>◎課題解決の状況を確認し、新たな目標や課題を設定している。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現)</p>
まとめ	<p>8 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。</p>	<p>8 本時の目標を確認し学習内容を振り返りながら学習カードを記入する。</p>		<p>◎課題解決の状況を確認し、新たな目標や課題を設定している。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現)</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にあつたピッチとストライドでスピードを維持できるペースを守って走ることができたか。(A)</li> <li>・ラップタイム表を用いて自己の能力に適したタイムを考え、設定することができたか。(B)</li> </ul>			

## 8 板書とICT計画



## 第1学年 保健体育（保健分野） 学習指導案

平成26年 1月24日（金）5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
1年B組女子 計13名  
授業者（T1）玉山 奈々江  
授業補助者（T2）菅野 幸枝

### 1 単元名

ストレスへの対処

### 2 単元のねらい

- (1) ストレスについて理解し、ストレスへの対処法等を知る。
- (2) ストレスへの適切な対処と心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組む。
- (3) 心の健康を保つために、上手なストレスへの対処法を身に付ける。

### 3 単元の評価基準

- (1) ストレスや、ストレスへの対処法等について理解している。
- (2) ストレス対処法について、自分の考えを明確に表現することができる。
- (3) 自分に合ったストレス対処法を考え、身に付けている。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

生徒は落ち着いており、発言も積極的に行う生徒が多い。一見ストレスがないように思えるが、中学校生活にも慣れたこの時期に、人間関係や成績、進路などのストレスを抱え始めている生徒への対応と予防をする必要があると感じている。

#### (2) 教材観

導入部分で、ストレス度チェックシートを用いて各自のストレス度を測定することにより、自分のストレス度を知り、その原因や解消法を学ぶ動機付けとする。また、展開では、実物投影機で話し合いの内容を映し出すことで共通理解を促すとともに、発表内容もより一層理解できるようにする。まとめの部分では、ワークに書き込むことにより、本時の学習内容を振り返ることができ、目標を達成できたかが明確に分かるようになる。

#### (3) 指導観

適度なストレスは人生に必要であるが、過度のストレスやその対処法を誤ると心の健康が保てなくなってしまう。ストレスとは何かを知ることにより、その対処法を考えられるようになる。また、ストレスの対処法は一つではない。様々なストレス対処法の中で、適切で個人に合ったストレス解消法を見付けることが大切である。解消法を全員が発表することにより、参考に取り入れられるものを選択することができる。

## 5 単元の指導計画（1時間扱い）

節・項	時	主な学習活動	指導上の留意点
ストレスへの対処	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスとは何か、ストレスへの対処法等について知る。</li> <li>・ストレス対処法について話し合い発表する。</li> <li>・自分に合ったストレス対処法を考え、見付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスとは何か、ストレスへの対処法等について理解させる。</li> <li>・自分の考えを明確に表現させる。</li> <li>・ストレスの種類によっては深刻な課題のものもあるため、発言やワークへの書き込みでは生徒の個人情報に十分留意する。</li> </ul>

## 6 指導の工夫

### （1）世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.241 の「健康にかかわる概念や原則を基に、自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりしたことについて、道筋を立てて説明するなどの学習活動を充実すること」に沿い、心の健康を保つことをテーマにした言語活動を進めていく。

### （2）ICT

実物投影機を使用し、話し合った内容を視覚化することで、全体での共有と個の再思考を促す。

### （3）小学校とのかかわり

- ①教材 小学校でストレス対処法について指導した教材について引き継ぎ、継続した指導ができるようにする。
- ②教員 現中学校1年生が小学校の時の学校生活の様子や健康の情報などを引き継ぎ、個別に配慮すべき点を考える。また、養護教諭の専門性を生かした指導（TT）も取り入れて授業を進めていく。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスとは何かを知る。(A)</li> <li>・ストレスへの適切な対処と心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組む。(B)</li> <li>・心の健康を保つために、上手なストレス解消を身付ける。(C)</li> </ul>
活用するICT	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">A 基礎的・基本的な知識・技能</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; margin-left: 10px;">B 思考力・判断力・表現力等</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; margin-left: 10px;">C 主体的に学習する態度</span>
目標とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機で自分のストレス対処法を映し出し発表できる。(B)</li> <li>・実物投影機に映し出された他の生徒のストレス対処法より様々な方法を知り、自分に合ったストレス対処法を身付ける。(A)</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で出た意見を聞き、考えをまとめる。(C)</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	<p>1 本時の目標を理解する。</p> <p>2 ストレスとは何か、どのような状況かを考えさせ、理解させる。 ・小学校の保健の授業ではどのようなことを行ったか復習する。</p>	<p>1 本時の目標を生徒に共通理解させる。 ・T1が説明をする。 ・「上手なストレス対処法を身につけよう」と書かれた紙を黒板上部に貼る。</p> <p>2 ストレスとは何か理解させる。 ・小学校の復習は、小学校教員が行う。 ・教科書、新保健体育ワークを使用する。</p>		<p>○予想される生徒の反応 ◎評価</p> <p>○意欲的に授業に取り組もうとする。 ◎ストレスについて理解している。(知識・技能)</p>
展開	<p>3 自分のストレス度をチェックする。</p> <p>4 グループになってストレス対処法を話し合う。 ・1グループ3～4人でグループを設定する。</p> <p>5 話し合ったストレス対処法を発表する。 ・全員発表する。</p> <p>6 自分にあったストレス対処法について考える。</p> <p>7 自分にとってのストレス対処法を、新保健体育ワークに書き込んで発表させる。</p>	<p>3 ストレス度チェックのプリントを配布し記入させる。</p> <p>4 話し合いしやすいように班の形に机を配置する。 ・3～4人のグループで話し合う ・話し合いカードを使用させる。 ・話し合った内容を模造紙にカテゴリー別に書き込む。 ・T1、T2、小学校の先生が話し合いの中に入り、必要があれば助言等を行う。</p> <p>5 実物投影機を使って映し、発表させる。</p> <p>6 発表した内容または自分の考えたストレス対処法の中で自分にあったものを考える。</p> <p>7 自分にとって何がストレスであるのか、対処法とともに考えさせる。 ・書ける範囲でワークに記入させる。 ・教科書、新保健ワークを使用する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">実物投影機</div> <p>・実物投影機に話し合った内容を映し出す事により、共通理解が出来、発表内容もより一層理解できる。</p>	<p>○自分のストレス度がどれくらいなのか関心をもつ。</p> <p>○ストレス対処法について考える。 ○自分の考えを他の生徒に伝える。 ◎クラスの中で、自分の意見や考えを伝えることができる。(思考・判断・表現)</p> <p>○発言者の内容に関心が高まる。 ◎話し合いに意欲的に取り組んで。(主体的に学習する態度)</p> <p>◎ストレス対処法について、自分の考えを明確にすることができる。(思考・判断・表現)</p> <p>○自分にとって何がストレスなのかストレス解消法とともに考える。 ◎自分に合ったストレス対処法を考え、身につけることができる。(思考・判断・表現)</p>
まとめ	<p>8 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。</p>	<p>8 本時の活動内容を振り返る。 ・活動目標を読み上げる。 ・各自本時の目標達成ができたか自己評価する。 ・次回学習内容の予告を行う。</p>		<p>◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスについて理解することができたか。(A)</li> <li>・ストレス対処法について、自分の考えを明確に表現できたか。(B)</li> <li>・自分に合ったストレス対処法を考え、見つけることができたか。(C)</li> </ul>			

## 8 板書とICT計画

## 〔映し出すもの・作業〕

○模造紙に書き出した、話し合いで出されたストレス対処法を実物投影機でTVに映し出す。

(1) 話し合いで出た意見を模造紙に書き出す。

(2) 個別発表の時、実物投影機に自分の意見を映しながら発表する。

※意見記入、機材準備 T2。

TV・電子黒板

## 〔板書計画〕

目標 上手なストレス対処法を身につけよう

## ストレスとは

適度なストレス⇔過度なストレス

ストレスの原因=ストレッサー

ストレスを上手に対処できないと

## ストレス対処法

● ●

ストレス対処法について書かれた模造紙は、個人発表後、黒板に貼る。

黒板

## 第1学年 国語 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 1年C組 計31名  
 授業者 山口 守俊

### 1 単元名

詩「生きる」(谷川俊太郎)を読む

### 2 単元のねらい

- (1) 谷川俊太郎の詩「生きる」をICTの資料を参考にしながら、読み味わう。
- (2) 各連に共通するものをグループで話し合い、クラス全体で共有しながら詩の特徴についての理解を深める。

### 3 単元の評価基準

- (1) 詩の表現を通して、作者の思いを読みとることができる。
- (2) 連ごとに共通する内容についての話し合いを通して、詩の特徴について理解している。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

表現を自分なりに読みとることができるが、多くの生徒はさまざまな見方や考え方で深く読むことが苦手な傾向がある。そのため、他の生徒の多様な考えから読みを深められるように、小グループによる話し合いを導入する。

#### (2) 教材観

五連それぞれにテーマ性がある文学的な教材である。単なる言葉の意味だけでなく、連のテーマごとに関連する文化や芸術などを取り上げて指導することで、詩の内容についての理解を深めさせる。

#### (3) 指導観

詩の特徴を理解させながら、詩のもつよさを感じられるように指導する。また、小グループによる話し合いを通して読みを深めるとともに、詩への関心を高めたい。

### 5 単元の指導計画(1時間扱い)

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
詩を読む	1	・詩「生きる」を、3～4人程度のグループで、連ごとの内容を意識して読み、その特徴や内容についての理解を深め合う。	・話し合いカードを活用する。 ・小グループによる話し合い活動を通して、詩の特徴について理解させる。

### 6 指導の工夫

#### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領P66「朗読を通して内容の理解を深め、作品に表れたものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる」について、話し合い活動を通して行い、ことばの力を高める。

#### (2) ICT

詩の内容理解を進めるための映像(関連する文化や芸術なども含む)を大型テレビに提示する。

#### (3) 小学校とのかかわり

①教材 小学校6年生で学習する「だいち」(谷川俊太郎)を取り上げて、詩の学習への導入を図る。

②教員 生徒の話し合い活動を観察し、助言する。場合によっては朗読する。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	(1) 谷川俊太郎の詩「生きる」をICTの資料を参考にしながら、読み味わう。(C) (2) 各連に共通するものをグループで話し合い、全体で共有しながら詩のテーマについて考える。(B)
活用するICT	A 基礎的・基本的な知識・技能    B 思考力・判断力・表現力等    C 主体的に学習する態度
目標とICT	パソコンを活用して、関連する文化や芸術に関する映像を提示し、学習への意欲と詩への関心を高める。
言語活動	・グループで話し合い、気づきや共有の体験を大切にする。 ・グループの中で、自分の考えを説明し、全体で交流して共有し、考えを深める。

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 既習の詩を思い出す。 2 本時の目標を生徒に共通理解させる。 3 「生きる」の範読を聞く。	1 小学校で既習した詩「だいち」と4月最初の詩「はる」を振り返る。	パソコン 目標を提示する。	○小学校のときにやった覚えがあるよ。 ○ひらがなだけで書かれているね。 ◎目標を意識して、学習への意欲をもつ。 (関心・意欲・態度)
展開	5 各連に共通している内容を「話し合いカード」を使ってグループで話し合う。  6 5で討議したことを全体で交流しながら共有し、再思考する。 ・「木もれ陽」とは何か  ・「泣ける、笑える、怒れる」に共通する性質は何か ・実際に見ているような気がする表現、聞こえているような気がする表現は何か	5 各連に共通することは何か、テーマは何かなどを詩の表現から読み取りながら、考えを交流する。 グループ討議で気付いたことや交流したことをワークシートに記入させる。 ・答えは一つではないことを指導し、効果的な表現の反復にも注意させる。  6 意見や考えをまとめる。 第一連 生理的な現象 人間の自然な反応 第二連 美しいもの 広い意味での芸術 ・「かくされた悪を……」の意味を想像させる。 第三連 自由であること 「～ができるということ」 第四連 同時に何かが起こっているということ「今」の繰り返し 第五連 自然現象、自然そのもの ・生徒の発表内容は、できるだけ取り上げる。	パソコン 木もれ陽 ヨハン・シュトラウス 美しく背きドナウ ラデツキー行進曲 ピカソ、アルプス	◎意欲的に話し合い活動に参加し、ワークシートに記入する。(関心・意欲・態度) ○これは共通しているね。 ○何だかむずかしいな。  ◎各連に共通する内容は何か読みとり、気づき、共有する。(話す・聞く)(読む) ○連ごとにテーマがあるのか。 ○どんなテーマなのだろう。 ○似ているものを繰り返しているのかな。  ◎関連する文化や芸術にも関心をもつ。(関心・意欲・態度) ○この音楽は聴いたことがあるよ。 ○この絵は美術でも見たね。  ◎「泣ける・笑える・怒れる」は可能動詞であることが分かる。(知識・理解) ○何だか追ってくる感じがするな。  ○この詩が伝えたいことは何だろう。
まとめ	7 この詩は「生きること」の( )が書かれているのか。 8 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	7 「生きることのすばらしさ」に気付かせる。		◎詩の作者が述べていることを理解することができる。(知識・理解)  ◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ表現の反復だけでなく、各連の似た表現の反復が生み出す効果について考えることができたか。(B)</li> <li>・生きることのすばらしさを作者が述べていることを理解することができたか。(B)</li> <li>・話し合うことによって、気づきや考えを共有することの楽しさを感じ、理解が深まったか。(B・C)</li> <li>・関連する文化や芸術に関心をもつことができたか。(C)</li> </ul>			



## 8 板書とICT計画

### [映し出すもの・作業]

#### ○ICT資料(写真・動画)

→プレゼンテーションソフトを用いる。

- ・だいち、はる
- ・木漏れ陽
- ・ヨハン・シュトラウス2世、1世
- ・美しく青きドナウ(動画)吹奏楽団演奏
- ・ラデツキー行進曲(動画)ピアノ演奏
- ・ピカソ(「マリーテレーズの肖像」)
- ・アルプス(地図、モンブランなどの写真)

#### ○生徒のワークシート

TV・電子黒板

### 「板書計画」例

「生きる」 谷川俊太郎

目標

1 詩を読み味わう。  
2 詩のテーマを読み取ることができる。

○各連ごとの内容に共通しているもの

○木もれ陽

○「泣ける・笑える・怒れる」に共通する性質

○第四連

実際に見ているような気がする表現

実際に聞こえるような気がする表現

○第一連と第五連「あなた」

○テーマ

「生きていることのすばらしさ」

黒板

## 第1学年 音楽 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 1年D組 計32名  
 授業者 柳田 拓史

### 1 単元名

日本の伝統音楽に親しもう

### 2 単元のねらい

音楽を形づくっている要素の知覚を通して、日本の伝統音楽の多様性を感じ取る。

### 3 単元の評価基準

- (1) 日本の伝統音楽に関心をもって「六段の調」を聴くことができる。
- (2) 箏の音色や独特な奏法による演奏効果などを感じ取ることができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

1年生は活発で、様々な活動に対して興味をもって取り組むが、より深く音を感じたり、表現したりする力が不足していることから、日本の伝統的な音楽において、さらに強くなると思われる。そこで、日本の伝統的な音楽のよさや表現の特徴などを感じ取れるように、指導法や教材の提示を工夫し、ICTの効果的な活用や言語活動の質の向上をめざしていく。

#### (2) 教材観

今回扱う「箏」は音を出すことが比較的容易で、なじみやすく、日本の伝統的な楽器に対する興味や関心を高めることに適している。また、「六段の調」は楽曲の構成が分かりやすく、箏の代表的な奏法も多く使われていることから、箏の独特な音色を感じ取るだけではなく、日本の伝統的な音楽の特徴にあげられる「速さの変化」や「余韻の変化」についても感じ取りやすい教材である。

#### (3) 指導観

箏を実際に演奏してみることで、学習に対する興味や関心を高め、日本の音楽がもつ独特の雰囲気や表現方法を感じ取らせたい。また、3年間を通じて、日本の音楽を系統的に取り上げていくことで、日本の伝統文化を誇りに思う人材を育てたい。

### 5 単元の指導計画（4時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
日本の伝統音楽	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏曲と箏の音色の特徴を知る。</li> <li>・DVD等で曲の特徴を聴き取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統音楽に関心をもって聴かせる。</li> </ul>
日本の伝統音楽	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の構造や音の出し方を知る。</li> <li>・班で順番に音を出してみる。</li> <li>・代表的な奏法について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏で簡単な奏法を演奏する技能を身に付けさせる。</li> </ul>
日本の伝統音楽 【本時】	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「六段の調」を鑑賞する。</li> <li>・余韻や速さの変化に注目する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の音色や独特な奏法による演奏効果などを感じ取らせる。</li> </ul>
日本の伝統音楽	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のまとめとして、「六段の調」を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統音楽に使われる楽器の音色の美しさを味わわせる。</li> </ul>

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.184 の「我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること」に沿って話し合い活動を行い、「我が国や郷土の伝統音楽」について学ぶ。

### (2) ICT

箏のもつ代表的な奏法についての実際の映像（実演）を見て、音色や独特な奏法による演奏効果を知ること、日本の伝統音楽のもつ特徴を知る。

### (3) 小学校とのかかわり

①教材 第5学年鑑賞教材の「春の海」を活用する。

②教員 ICTの操作、話し合い活動の助言を中心に行う。また、箏の奏法についての模範演奏と、生徒の活動の支援をする。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	・箏曲の音色や独特な奏法による演奏効果や日本の伝統的な音楽の特徴を感じ取る。(B) A 基礎的・基本的な知識・技能 <b>B 思考力・判断力・表現力等</b> C 主体的に学習する態度
活用する ICT	パソコン、デジタル教科書
目標と ICT	・デジタル教科書を使用し、箏の代表的な奏法について実際の映像を見せることにより、理解をより深める。
言語活動	・箏の代表的な奏法について、その音色がどのように変化するかを話し合い、発表する。

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 本時の目標を理解する。	1 本時の目標を全員に共通理解をさせる。 ・ワークシートに記入させる。	パソコン 「箏」という楽器の全体像をイメージさせる。	◎予想される生徒の反応 ◎評価 ◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度) ○黙々と「箏」についてイメージする。
展開	2 前時の学習内容を確認する。	2 箏の構造について復習させる。 ・各班に箏を配置する。 ・箏独特の音階(平調子)について確認させる。	・平調子の音階を楽譜と音で確認させる。	◎前時の学習内容を意欲的に発言している。(関心・意欲・態度) ○竜頭、・・・あと何だっけな。
	3 箏の代表的な奏法について説明する。	3 引き色と押し手について、音の変化について話し合わせる。 ・「引き色」と「押し手」の映像を見せ、どのように音が変化したかを確認させる。	パソコン	◎自分の意見を意欲的に発表する。(関心・意欲・態度) ○音が低くなるんじゃないかな。 ◎音の動きを感じ取ろうとする。(感受や表現の工夫)
	4 箏の代表的な奏法について知る。	4 音の変化を確認する。 ・奏法の映像を見せることと、指導者が実際に演奏してみるにより、音の変化に気づかせる。		◎わずかな音の変化を聴き取る。(鑑賞の能力) ◎奏法の変化に注目して聴く。(感受や表現の工夫)
	5 「六段の調」の初段を鑑賞する。	5 初段の演奏の冒頭を聴かせる。 ・奏法に注目させる。 ・初段の演奏から、引き色や押し手がどこで使われていたかを話し合わせ、発表させる。		◎曲想に注目して聴くことができる。(鑑賞の能力) ◎演奏を集中して聴くことができる。(関心・意欲・態度) ○今のがそうじゃないのかな。
	6 「六段の調」を全曲鑑賞する。	6 曲想の変化に注目し、全曲を鑑賞させる。 ・全曲を鑑賞してみて、感じたこと思ったことをワークシートに記入させ、話し合わせる。		◎曲全体の構成を感じるができる。(鑑賞の能力)
	7 曲の速度の変化について考える。	7 速度の変化が音楽にどのような効果を与えているかを考えさせる。		◎速度の変化に気が付く。(感受や表現の工夫) ○だんだん速くなっている気がする。
	まとめ	8 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	8 「六段の調」を鑑賞し、本時の学習から学んだことを、ワークシートに記入する。	
評価	・日本の伝統的な音楽のもつ特徴を感じ取り、自ら考え、主体的に意見を述べる事ができたか。(B)			

8 板書とICT計画

【映し出すもの・作業】

- 箏の全景
- 「平調子」の音階楽譜
- 引き色の動画
- 押し手の動画

TV・電子黒板

【板書計画】

○ 日本の伝統音楽に親しもう 箏曲「六段の調」

- ・ 余韻の変化を味わいながら聴き、箏の音色に親しむことができる。
- ・ 速度の変化に注目して聴き、その効果を感じ取ることができる。

○ 発問

- ・ 箏の構造（名称）について
- ・ 平調子について
- ・ 引き色
- ・ 押し手

黒板

【映し出すもの・作業】

- 
- 
- 

タブレット型PC

## 第2学年 社会 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 2年A組 計32名  
 授業者 川原泰寛

### 1 単元名

近代社会の成立

### 2 単元のねらい

欧米諸国における啓蒙思想や市民革命、産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。

### 3 単元の評価基準

- (1) 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解し、その知識を身に付けている。
- (2) 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどについて多面的・多角的にその過程や結果を考察し、適切に表現することができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

現代社会に対する関心が高く、社会の学習に対しても意欲的で積極的な発言をする生徒が多い。一方、これまでの学習の中で基礎学力が十分に身に付いていない生徒もおり、導入で社会的事象に関心をもたせることで、意欲的に学習に取り組ませるよう留意している。

#### (2) 教材観

現代の民主主義社会の基礎をつくり、日本国憲法にも大きな影響を与えている市民革命が、多くの市民の努力と命がけの運動によって実現したこと、獲得した権利の実現にむけて多くの人々が今なお努力を続けていることが、現代社会と結び付いていることを感じ取らせたい。

#### (3) 指導観

世界史の基礎的・基本的な知識を習得させるとともに、思考力・判断力を高める学習を、ICTの活用や板書の工夫によって進めていく。

### 5 単元の指導計画（6時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
アメリカ植民地の発展	1	・ヨーロッパ諸国が植民地と行った三角貿易のしくみを読み取り、奴隷制度のもとで拡大、発展していった過程を考える。	・黒人奴隷について、「ルーツ」の内容を紹介し、南北戦争や現代に続く差別問題につながる内容を取り扱う。

イギリスの革命とアメリカの独立	1	・イギリスの革命とアメリカの独立の原因や経過を理解する。	・市民革命で立憲君主国になったイギリスがその植民地であるアメリカへの政策を意識させ、革命の成果と課題について考えさせる。
フランス革命【本時】	1	・フランス革命の経過を学ぶとともに、一連の市民革命がめざしたもの、その後の世界に与えた影響について考える。	・フランス革命を含め市民革命によって自由・平等の思想が広まり、以後の人権拡大の出発点になったこと及び、人類の多年にわたる努力の成果によって基本的人権が確立したとする憲法の学習につながるものとする。
産業革命と近代社会の夜明け	1	・産業革命による工業化の進展と、それに伴う資本主義社会の成立と社会問題の発生を考える。	・社会問題の発生は現在のいわゆる「ブラック企業」とも関連させて取り扱う。
欧米諸国の勢力拡大	1	・産業革命が進展する中で、ヨーロッパ諸国の植民地の動きと帝国主義政策をとった理由を考える。	・ヨーロッパ諸国、アメリカの動きが羅列的にならないように焦点をしばって指導する。
欧米諸国のアジア進出	1	・帝国主義のもとヨーロッパ諸国がアジアへ進出した目的やそれに対するアジア諸国の対応について理解する。	・イギリスによるインドと中国への理不尽な侵略行為を扱い、帝国主義について理解させる。

## 6. 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.99 (言語活動) 「イギリスの革命、アメリカの独立やフランス革命が起こった背景や市民が獲得した権利、政治の仕組みの変化について話し合っ  
て考え、表現する活動」を踏まえ、市民革命のまとめの時間として、事象の成果や課題を話し合い、整理し、発表させる。

### (2) ICT

導入において、CDプレーヤーで2か国の国歌を流し、生徒の関心をひきつけるようにする。実物投影機やパソコンで映像資料を提示し、考えを深めさせる。

### (3) 小学校とのかかわり

①教材 市民革命によって獲得した諸権利が、小学校6年生で学習した日本国憲法の3原則の中の2つにつながっていることを確認する。

②教員 小学校で学習した日本国憲法の3原則について、繰り返し学習を行う。

## 7 本時の目標・展開・評価

<b>本時の目標</b>	・フランス革命の原因や経過を理解し、市民革命によって獲得したこと、課題として残されたことを確認する。(A) ・市民革命と江戸時代の農民の行動を比較し、欧米と日本の社会のちがいを考える(B) A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度			
<b>活用するICT</b>	自作コンテンツ・CDプレイヤー・パソコン・実物投影機			
<b>目標とICT</b>	・フランス革命への関心を高める。			
<b>言語活動</b>	・市民革命の欧米と日本の江戸時代を比較して、両者のちがいについて話し合い、発表する。			
<b>導入</b>	<b>学習内容・活動</b> 1 フランス国歌と国旗の由来を知る。 2 本時の目標を理解する。	<b>学習指導・言語活動・留意点</b> 1 国歌クイズを行う。 ・アメリカ合衆国とフランスの国歌を聴かせる。 2 本時の目標を生徒に共通理解させる。 ・フランス国旗とともにフランス革命に由来することを話し、本時の目標を板書す	<b>ICT</b> CDプレイヤー パソコン ・フランス国旗	<b>○予想される生徒の反応 ◎評価</b> ○オリンピックでよく聴く。 ○ビートルズの曲で聴いたことがある。 ○チャイコフスキーも使っている。 ◎フランスの国旗、国歌に興味をもつことができたか。(関心・意欲・態度)
<b>展開</b>	3 1789年7月14日にパリ市民がバスチーユ牢獄を襲撃したのはなぜか考える。 ・バスチーユ襲撃の画像と説明を聞いて考え発表する。 4 なぜ市民はこうした行動をとったか、フランスの状況を予想し発表する。 5 革命前のフランス絶対王政の様子を確認する。 ・資料集P.114の1「ルイ14世と絶対王政」ベルサイユ宮殿の写真、配布資料、PC画像を見る。 6 確認された権利を確認する。 ・人権宣言1、3条を読む 7 その後のフランス革命の動き(ナポレオン)を確認する。 ・教科書P.151、14行～25行を読む。 8 これまで学習した3つの市民革命は、憲法や宣言に記載したことをどれくらい実現できているか確認する。 9 江戸時代の農民の一揆との違いについて、グループで意見交換し、発表する。	3 ヒントとして、バスチーユ牢獄の果たしていた役割を説明する。 ・国王に犯行した政治犯を収容。軍の武器庫。要塞。 4 前時の学習内容を思い出させる。 ・イギリスやアメリカの場合を思い出させる。 5 資料を見ながら明らかにさせる。 ・贅沢な国王の生活、重税、身分制度、などの資料を提示する。 ・江戸幕府の改革とも比較させる。 6 日本国憲法の3原則を思い出させる。 ・小学校での学習を振り返らせる。 7 解説をする。 ・重要事項を板書してまとめる。 8 独立宣言、人権宣言の内容、アメリカの黒人、先住民の問題、女性選挙権、ナポレオン法典の家族の項目に注目させる。 ・ワークシートを使用する。 9 幕藩体制、幕府の改革の内容と絶対王政の政治を比較させる。	<b>実物投影機</b> ・バスチーユ襲撃の画像 パソコン ・僧と貴族を背負う農民 ・ルイ16世 ・ベルサイユ宮殿 <b>実物投影機</b> ・小学校教科書の図	○大砲を持っている ○正規軍のなかに国民側について者がいた。 ○仲間を救出する、国王へ抵抗の意志を示す、武器を奪って使う。 ○代表を出せないのに税金をたくさん取られた。国王のやりたい放題。 ○宗教的な弾圧があった。 ◎前時の内容を理解しているか。(知識・理解) ○農民がかわいそう。 ○赤字なのに宮殿は豪華で贅沢な生活をしている。江戸幕府とは違う。 ○基本的人権、国民主権。 ◎日本国憲法につながっていることをつかめたか。(知識・理解) ○黒人差別、女性差別、先住民差別が残る。 ○「基本的人権などを広めた。 ○国民が代表の議会をつくった。 ○ヨーロッパは絶対王政、日本は封建社会。 ○農民の敵は藩の殿様で、將軍を倒す発想はない。 ◎日本とヨーロッパの社会体制の違いを理解できたか。(知識・理解)
<b>まとめ</b>	10 市民革命で実現できたこと、できなかったことから、市民革命は「人権獲得」の「」ではなく、「人権獲得」の「」であった。にあてはまる言葉を考える。	10 状況に応じて「」に入る言葉のヒントを出す。		○終点、出発点、スタート、ゴール
<b>評価</b>	・フランス革命の原因や経過を理解することができたか。(A) ・フランス革命の原因をその他の革命と関連させながら考え、発表することができたか。(B) ・市民革命の成果と課題について、資料などをもとに理解できたか。(A) ・江戸時代の農民の行動とのちがいを、国の体制などの視点から考えることができたか。(B)			



8 板書とICT計画

〔映し出すもの・作業〕

- フランス国旗
- バスチーユ襲撃図
- 僧と貴族を背負う農民
- ベルサイユ宮殿
- ルイ 16 世
- 日本国憲法 3 原則 (小学校教科書)

TV・電子黒板

〔板書計画〕 22 フランス革命 市民革命は政治(国)をどう変えたか

フランス革命の原因や経過が分かる。当時の欧米と日本の社会のちがいを考える。

フランス国歌「ラ・マルセイエーズ」

3) 人権宣言

国旗「トリコロール」三色旗

人はみな自由・平等、国民主権

世界の民主主義の原点

4) 革命のその後

すべては 1789 年 7 月 14 日から始まった!

周辺王国 革命を許すな VS ナポレオン 自由守れ

1) バスチーユ襲撃

ロシア遠征に敗北し中断

ひどい政治を変えたい 仲間を救出

5) 市民革命で実現したこと、できなかったこと

2) 革命前のフランス

実現→ 国民中心の議会 人権意識

身分制度 市民・農民は重税

できなかった→ 女性参政権 人種・先住民差別

国王・貴族は特権階級 ぜいたくな生活

6) 農民一揆とのちがいは?

ベルサイユ宮殿 (ルイ 14 世)

封建社会 (日本) と絶対王政 (欧米)

農民の敵は藩の殿様

市民革命は人権獲得の「ゴール」ではなく「スタート」

黒板

## 第2学年 理科 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
2年B組 計33名  
授業者 栗山 幸大

### 1 単元名

電流とその利用「静電気と電子」

### 2 単元のねらい

- (1) 静電気は異なる物質同士をこすり合わせることで発生し、帯電した物体間では空間を隔てて力がはたらくことを見出す。
- (2) 陰極線の観察を通して、電流はマイナスの電気をもった粒の流れであることを理解する。

### 3 単元の評価基準

- (1) 静電気が発生するメカニズムや、静電気が及ぼす力は空間を隔てて作用することを見出し、説明することができる。
- (2) 電流はマイナスの電気をもった粒の集まりであることを陰極線の動作から理解し、説明することができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

自然科学について、自分の考えを積極的に発表する生徒が多い。しかし、学力調査や定期考査などの結果から、科学的思考力の観点が不十分であることが分かっている。実験や自然現象の観察などから考えをまとめ、話し合うことで、思考力を高めたい。

#### (2) 教材観

電流の作用についての既習事項を生かし、本単元では、身近に発生しやすい静電気を利用することで、電気そのものの性質の学習につなげる。クルックス管の実験から、電気とはマイナスの電荷をもった電子であることを理解させる。

#### (3) 指導観

静電気が起こす作用は日常生活の中にも見られる。その中で、引き付け合ったり離れたりする現象を録画した映像を提示し、なぜこのような現象が起きたのかについて話し合わせ、静電気と電子の性質についての考えをまとめるように指導する。このように、話し合い活動、表現活動を取り入れて言語活動を充実し、ことばの力を高めたい。

## 5 単元の指導計画（5時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
静電気 【本時】	1	・静電気を発生させる実験から、静電気の作用を見出し、引きつけ合ったり、離れ合ったりする性質を見出す。	・静電気の発生、静電気の作用について、自分の考えを自分なりのことばで表現させる。
静電気	2	・はく検電器を利用し、プラスとマイナスの2種類の電気がどのような作用を示すか話し合い、説明する。	・はく検電器の挙動と電気の流れについて考え、自分のことばで表現させる。
静電気と電流	3	・静電気を利用して、蛍光灯やネオン管を光らせ、静電気も電流を流すことを理解する。	・静電気も電流を流す電気であることを理解させる。
電子の流れと電流の流れ	4	・真空放電や、クルックス管の電子線を見て、電流は決まった方向で流れていることを理解する。	・電子線とX線のつながりを説明させる。 ・クルックス管の電子線の向きを理解させる。
	5	・電子がマイナスの電荷をもっているために、クルックス管の中で起こる現象について、話し合い電流の流れと、電子の性質についてまとめ、発表する。	・クルックス管の電子線が磁石や電流の影響で曲がる原因を考え、自分のことばで説明させる。

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.161「異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流は関係があることを見出すこと」という内容に沿い、実際に起きた現象をもとにした話し合い活動を通して静電気の性質を考え、静電気と電流との関係を見出させる。

### (2) ICT

自分の考えを発表しやすい環境をつくるため、タブレットPCやプロジェクターを利用する。

### (3) 小学校とのかかわり

- ①教材 小学校の既習事項を想起させて学習効果を高めるため、下敷きを使った静電気の実験を行う。
- ②教員 静電気を発生させる実演や、グループ活動の際の机間指導を行う。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ別の性質を示す電気があることを見出す実験に意欲的に取り組む。(C)</li> <li>実験から見出して考えたことをまとめ、発表する。(B)</li> </ul>
活用するICT	A 基礎的・基本的な知識・技能 <b>B 思考力・判断力・表現力等</b> <b>C 主体的に学習する態度</b>
目標とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の手順をタブレットPCに保存して説明の時間を短縮し、実験や話し合いに集中できる環境をつくる。</li> <li>実験の様子を記録し、発表の際に投影することで、生徒が自分の考えを説明しやすいようにする。</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験から考えた意見を自分のことばで説明する。</li> <li>グループのさまざまな意見を理解しながら、仮説を考えて検証する。</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 導入の実験を観る。 2 本時の目標を理解する。	1 小学校の教員が導入実験をする。 ・下敷きを用いて、机上の紙を浮かせる。 2 本時の目標を提示し、生徒に共通理解させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">実物投影機</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">プロジェクター</div>	○静電気だ。 ◎目標を把握し、達成のために意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
展開	3 実験方法と、本時の流れを聞く。 4 実験を行う。 5 グループで話し合う。 ・話し合いをしながら実験を行う。 6 実験道具を片付ける。 7 グループごとに発表する。 ・班で考えた内容をわかりやすく映し出す。	3 本時の授業の流れと実験手順を説明する。 ・生徒の作業時間を板書する。 4 実験をさせる。 ・実験手順を示した動画を各班のタブレットPCに保存しておき、必要に応じて確認させる。 5 実験から考えたことをグループで話し合わせる。 ・「話し合いカード」を活用し、全員が意見を言い合えるようにする。 ・実験は仮説と検証を繰り返させる。 ・実験の様子を記録させ、生徒が自分のことばで説明しやすいようにする。 7 グループで話し合った内容をまとめ、発表させる。 ・班の中で話し合った内容をワークシートに記入させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">タブレットPC</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">プロジェクター</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">タブレットPC</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">タブレットPC</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">タブレットPC</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">プロジェクター</div>	◎説明をよく聞き、意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度) ◎こするものは、ハンカチなどを使ってもいいのですか。 ○実験の動画はいつ見てもよいから、分かりやすいな。 ◎意欲的に実験に取り組む。(関心・意欲・態度) ○自分はこう考えたよ。 ◎グループの中で、自分の考えを説明する。(思考力・判断力・表現力) ○同じ物質同士だと反発しているね。 ○物質によってたまる電気の性質がちがうのではないかな。 ◎グループで出した意見をまとめることができる。(思考力・判断力・表現力) ○あの班はこう考えたんだ。 ◎自分の考えを、自分なりのことばで説明し、伝えることができています。(思考力・判断力・表現力)
まとめ	8 実験のまとめ ・5で話し合った内容を振り返り、7の発表をふまえて再思考する。 9 本時の学習内容をふりかえり、目標を達成できたか評価する。	8 実験のまとめ ・再思考した結果をワークシートに記入させる。 ・本時の実験の様子を投影する。 9 本時の目標と学習内容を照らし合わせる ・目標を達成できたか挙手をさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">タブレットPC</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">プロジェクター</div>	○電気には二つの性質があって、引きつけあったり、反発し合ったりしてるんだ。 ◎本時の振り返りに積極的に取り組む。(関心・意欲・態度)
評価	・実験に意欲的に取り組み、静電気の性質について見出すことができたか。(C) ・静電気の性質について自分の考えをもって話し合い、自分なりのことばで表現することができたか。(B)			

8 板書とICT計画

〔映し出すもの・作業〕

○タブレットPCに記録しておいた  
実験の手順を映す。

○タブレットPCに記録した  
生徒の実験の様子を映す。

TV・電子黒板

〔板書計画〕

○静電気についての導入

(今日のめあて) ・静電気の性質が分かる ・自分の意見を発表する

○静電気の発生方法

※生徒の発表をメモする

・異なる物質同士をこする。

○実験時間、グループ活動時間、発表時間など

黒板

〔映し出すもの・作業〕

○実験の手順を映す。

○実験している様子を記録する。

タブレット型PC

## 第2学年 技術・家庭（技術分野） 学習指導案

平成26年 1月24日（金）5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 2年C組 計33名  
 授業者 水田 剛

### 1 単元名

エネルギー変換に関する技術

### 2 単元のねらい

- (1) エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。
- (2) エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について考え、それらを適切に評価して活用する能力と態度を育成する。

### 3 単元の評価基準

- (1) エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みについての知識がある。
- (2) 機器の基本的な仕組みを知り、保守点検と事故防止ができる。
- (3) エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考え、まとめることができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

何事にも興味・関心を示し、授業に意欲的に取り組む姿勢がみられる生徒が多い。金属の接着では経験者がほとんどいないため、技術的な部分と必要な知識を理解させ、意欲的に技能を習得させる。

#### (2) 教材観

教材（はんだごて）を製作することで、電気エネルギーが熱エネルギーへ変換される仕組みを理解させる。3年生になってからの作品の製作に、自分の工具として利用させることで、作品への愛着をもたせたい。

#### (3) 指導観

機器の安全の利用と保守点検を通して、エネルギーを身近に感じさせることで、自分の生活にあてはめて考えやすくさせる。

### 5 単元の指導計画（20時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
わたしたちの生活とエネルギー変換	2	・エネルギーとエネルギー変換	・エネルギーが音や熱などに変換され損失していることを確認する。 ・エネルギー変換効率を上げる必要性や、変換効率が低いために生じる問題点を説明させる。

エネルギーの変換と利用	2	・電気機器への利用	・自分の住んでいる地域では、どこの地域から、どういう経路で送電されてくるか考えさせる。 ・発電所から家庭までの送電、配電のしくみを説明させる。
動力伝達の機構とその利用	2	・動力伝達のしくみ	・直線運動から回転運動に変化させているものもあることを考えさせる。 ・リンク機構やカム機構のはたらきや特徴について説明させる。
機器の安全な利用と保守点検 【本時】	3	・電気機器の構造	・電気機器には定格電流・電圧・時間が決められていることに気付かせる。 ・漏電、感電、加熱および短絡による事故を防止できる技能を考えさせる。
実習例 【本時】	10	・製作品の構想と設計 ・はんだごて	・換気や火傷などに注意してコードの端末処理の方法を指導する。 ・正確な部品加工が行えるように指導する。
エネルギー変換に関する技術とわたしたち	1	・社会・環境とのかかわり	・エネルギー変換技術を有効に利用した製品の使用が、地球環境を保全し、持続可能な社会をつくることを指導する。(ESD) ・持続可能な社会をめざすために、エネルギー変換に関する技術の役割と影響を考えさせる。(ESD)

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.244「電気機器の長所や短所、保守点検の方法や短絡や発火等の事故が起こりそうな場面等について具体的に考えたり話し合ったり伝えたりする活動」を実践し、ことばの力を高める。

### (2) ICT

実物投影機を使い、工具の使い方や作業手順を見せることで技能の確実な定着を図る。また、生徒の作業過程を大型モニターで見せることで、細かな技能の理解を深めるとともに、評価による価値付けをして自信をもたせる。

### (3) 小学校とのかかわり

- ①教材 図画工作や家庭科で学んだ機器の安全な利用とペンチなどの工具の利用について引き継ぎ、継続した指導ができるようにする。
- ②教員 現中学校2年生が小学校の時の学習状況を引き継ぎ、作業や安全指導などの視点から個別に配慮すべきことを考える。また、TTとして授業に参画し、作業時などの机間指導を行う。

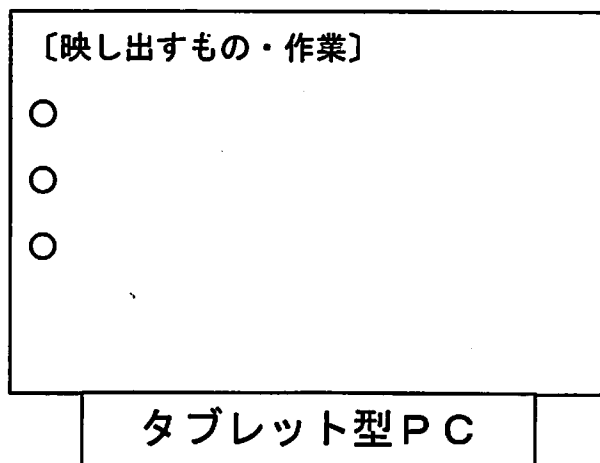
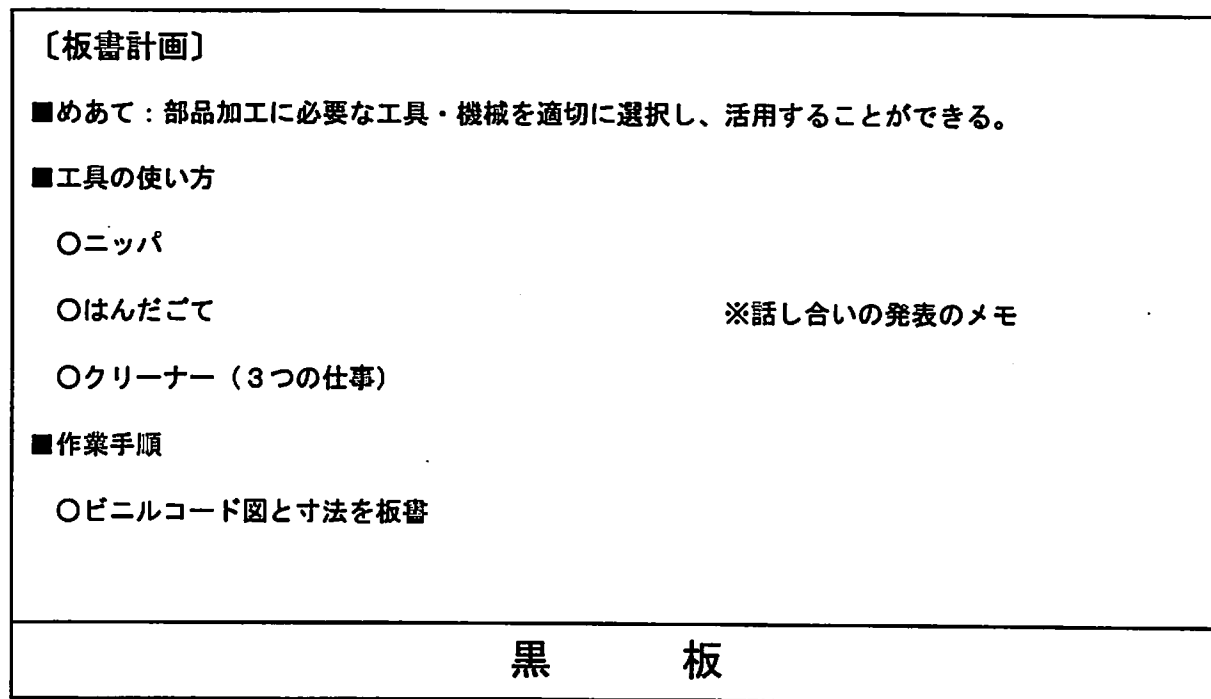
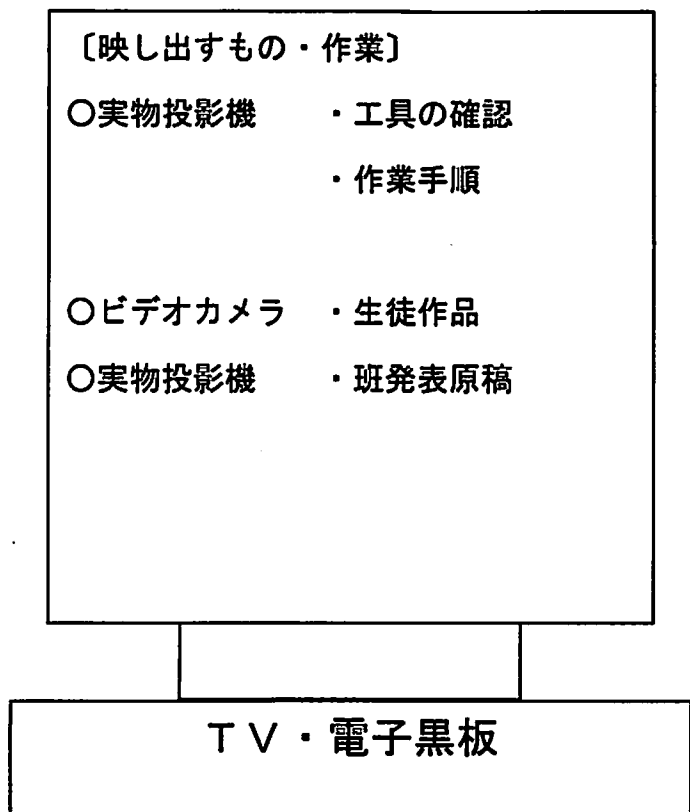
## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>部品加工に必要な工具・機械を適切に選択し、活用することができる。(A)</li> <li>電気機器の長所や短所、保守点検の方法や短絡や発火等の事故について考え、表現することができる。(B)</li> </ul>
	<p>A <u>基礎的・基本的な知識・技能</u>    B <u>思考力・判断力・表現力等</u>    C 主体的に学習する態度</p>
活用する ICT	実物投影機・ビデオカメラ・VTR
目標と ICT	・実物投影機・ビデオカメラを活用し、切断する箇所や作業順序の理解を深める。
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合った意見等をまとめ、説明できている。</li> <li>グループのなかで自分の考えを整理してしっかりと相手に伝えることができる。</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	<p>1 本時の目標を理解する。</p> <p>2 工具とはんだづけのしかたについて知る。</p>	<p>1 本時の目標を生徒に共通理解させる。 ・前時までの作業進度を確認する。</p> <p>2 はんだづけを演示する。 ・教科書P113を参考に、はんだづけのしかたを演示して理解させる。</p>	<p>実物投影機</p> <p>ビデオカメラ</p>	<p>◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○金属が溶けているよ。</p> <p>◎工具の名称が分かる。(知識・理解)</p>
展開	<p>3 グループで話し合い、話し合ったことを発表する。 ・電気機器の長所や短所、保守点検の方法や短絡や発火等の事故について「話し合いカード」を使用する。</p> <p>4 ビニルコードの端末をまとめる。</p> <p>5 心線をはんだづけする。</p> <p>6 正しいはんだづけができたか検査する。 ・グループで話し合った内容を振り返り、安全等について考え、確認する。</p>	<p>3 グループで話し合わせる。 ・話し合った内容を発表できるようにまとめる。 ・4名の班単位で意見を言い合えるようにする。 ・グループで話し合った内容をまとめさせる。 ・グループ活動時は、TTとして小学校の教員が入り、机間指導をする。</p> <p>4 ビニルコードの長さを板書して説明する。 ・ニッパでビニルコードの被覆を取る。 ・教科書P.113を参考に、ビニルコードの端末処理をさせる。 ・ビニルコードの心線の巻きつけ方向に注意させる。</p> <p>5 教科書P.113を参考に はんだづけを行わせる。 ・熱によるやけどや火災に注意させる。</p> <p>6 はんだづけが正確にできたか確認する。 ・班で相互に確認させる。</p>	<p>ビデオカメラ</p> <p>実物投影機</p> <p>ビデオカメラ</p> <p>・生徒の作業を撮影して、大型モニターへ写す。</p>	<p>○では話し合いをはじめましょう。</p> <p>◎自分の考えをグループに伝えることができる。(見方や考え方)</p> <p>○それはどういうことですか。 ○反対の意見なんだけど。 ◎発表を聴いて分かったことや重要だと感じたことをまとめることができる。(見方や考え方)</p> <p>○初めて触れる工具だな。 ○どのように使うのかな。</p> <p>◎作業に意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○初めて使う工具は難しくて作業が進まないな。</p> <p>◎工具の使い方を理解して作業を完成させることができている。(知識・理解)</p>
まとめ	7 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	7 本時を振り返らせる。 ・カードに自己評価、感想を記入させる。	<p>実物投影機</p> <p>大型モニター</p> <p>・カードを表示する</p>	◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>はんだづけの基礎的、基本的な知識、技能を理解して作業することができたか。(A)</li> <li>グループでの話し合いや発表を通して自分の考えをしっかりとまとめ、表現することができたか。(B)</li> </ul>			



## 8 板書とICT計画



## 第2学年 美術 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 2年D組 計31名  
 授業者 坂本 佳苗

### 1 単元名

日本の伝統工芸を学ぶ「螺鈿」

### 2 単元のねらい

- (1) 日本美術に対して関心を高め、螺鈿の技法や表現の美しさを知る。
- (2) 貝の繊細な素材や輝き美しさを味わい、構図を考える。
- (3) 繊細な素材が生きるような、貝の加工・定着、仕上げの技能を身に付ける。

### 3 単元の評価基準

- (1) 日本の伝統や文化について関心をもち、螺鈿について理解している。
- (2) 貝の繊細さや輝きを感じ取り、それを生かした下絵を考え、まとめることができる。
- (3) 加工の工夫や丁寧な定着、応用的な表現、仕上げにより魅力的に制作することができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

日本美術の歴史や社会的背景に関心をもって取り組む生徒や、日本美術の特徴を理解し、表現に生かそうと工夫する生徒が多い。

#### (2) 教材観

今日まで受け継がれている技法や美しさについて考え、日本美術への関心を高めるために螺鈿を設定した。使用する時間、場所などの目的を考え、美術が日常にどのようなかわりをしていくかについて、生徒が気付くようにしたい。

#### (3) 指導観

螺鈿技法のDVDを鑑賞し、日本の伝統文化の奥深さについて考えさせる。また、ワークシートを使用し、鑑賞から得たことを自分が表現するときに生かせるように工夫する。

### 5 単元の指導計画 (11時間扱い)

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
鑑賞	1	・螺鈿の技法のDVDを鑑賞し、日本の伝統工芸についての知識を深め、日本美術の特徴をワークシートにまとめる。	・日本美術の特徴に注目させ、日本美術史など社会的背景も交えて鑑賞して、レポートにまとめ提出させる。
図案 【本時】	2	・日本美術の特徴を生かした下絵を考える。	・日本美術の特徴でもある繊細さを意識させ、下絵を考えてワークシートに描かせる。
製作	7	・用具の使い方を工夫し、間の魅力の意識しながら制作する。	・先端の表現や、貝の配置などねらいをもって定着させる。
鑑賞	1	・デザインの目的など制作のねらいをワークシートにまとめ、クラス全員で鑑賞する。	・作品のよいと感じた理由をワークシートにまとめさせ、お互いに鑑賞し合う。

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領の P.198「伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動」を通して、日本美術の特性について学び、表現する。

### (2) ICT

DVD鑑賞により、日本の伝統工芸の技法についての理解を深めたり、実物投影機を使い、用具の使い方や手元の動きの見本を見せて技能の向上を図ったりする。また、ビデオカメラで記録した生徒の制作過程を生徒に見せることで、発想の展開の理解や技能の定着の支援をする。

### (3) 小学校とのかかわり

①教材 教科書「ゆめを広げて5・6下」P.20,21「墨のうた」日本の伝統的な素材に触れる。  
P.34,35「わたしはデザイナー」使う目的や機能などの発想方法を応用する。

②教員 日本美術の図案見本の表示や特徴への助言、下絵のアドバイスをを行う。



## 8 板書とICT計画

〔映し出すもの・作業〕

- 実物投影機で手元の動きを見せる。
- 本時の参考作品を映す。

TV・電子黒板

〔板書計画〕

本日の目標：貝の素材を生かし、テーマに合ったデザインを考える。

考えるポイント

- ・日本美術の特徴からイメージする。
- ・貝の輝きや模様を生かす。(形)

手順：①下絵を考える。

②下絵のねらいとテーマをワークシートにまとめ、発表する。

黒板

〔映し出すもの・作業〕

タブレット型PC

## 第3学年 数学 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 3年A組 計38名  
 授業者 遠藤 晴久  
 田村 真治

### 1 単元名

式の計算「文字式による説明」

### 2 単元のねらい

- (1) 数量や数量の関係を、文字式を用いて表すことができる。
- (2) 数や図形の性質を、文字式を使って一般的に説明することができる。

### 3 単元の評価基準

- (1) 数量や数量の関係を、文字式を用いて表すことができる。
- (2) 文字式で表現したり、その意味を読み取ったりして、命題が成り立つことを説明することができる。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

数学の授業では、自分の考えを積極的に発表することができる生徒もいる。しかし、学力調査や定期考査などの結果から、多くの生徒は記述して説明する問題が苦手な傾向があるため、ICTを活用して発表させることで表現力を高める。

#### (2) 教材観

文字式を使って計算の規則性を一般化する内容は、中学2年生の学習内容である。本時の授業では、小学3年生の2位数の計算の発展的な内容を導入として使い、その一般化として中学2年生で学習した文字式の知識や、中学3年生で学習した乗法公式・因数分解を利用する。

#### (3) 指導観

小学校の学習内容を導入で確認し、文字式を使って速算の規則性を、ワークシートを利用して考えさせる。また、話し合い活動、発表を行い、生徒の言語活動を充実させる。

### 5 単元の指導計画（1時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
式の計算 「文字式による説明」	1	・数量の関係を文字式を使って表現したり、その意味を読み取ったりして、命題が成り立つことを説明する。	・グループごとの理解度に応じて、個別の支援を行う。 ・速算の規則性を見つけ、文字を使って表わすことができ、自分の考えをことばで表現させる。

### 6 指導の工夫

#### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.135 「数量の関係を文字式を使って表現したり、その意味を読み取ったりして、命題が成り立つことを説明する活動」に沿い、グループによる言語活動を取り入れ、生徒たちのことばの力を高めることにつなげる。

#### (2) ICT

タブレットPCや実物投影機を利用し、生徒たちに自分の考えを発表させる。タブレットPCは、応用コースに1人1台、基本コースに班で1台貸与する。

#### (3) 小学校とのかかわり

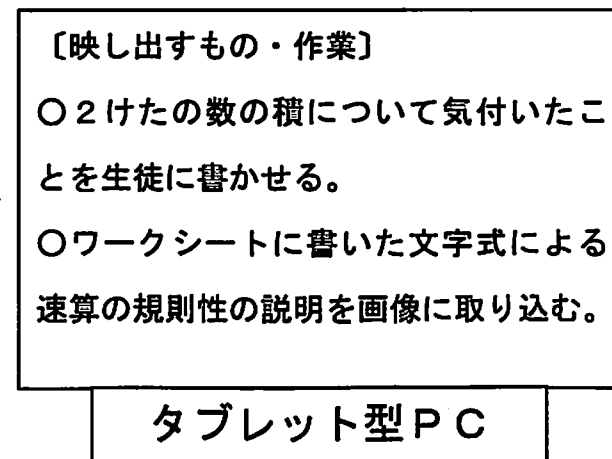
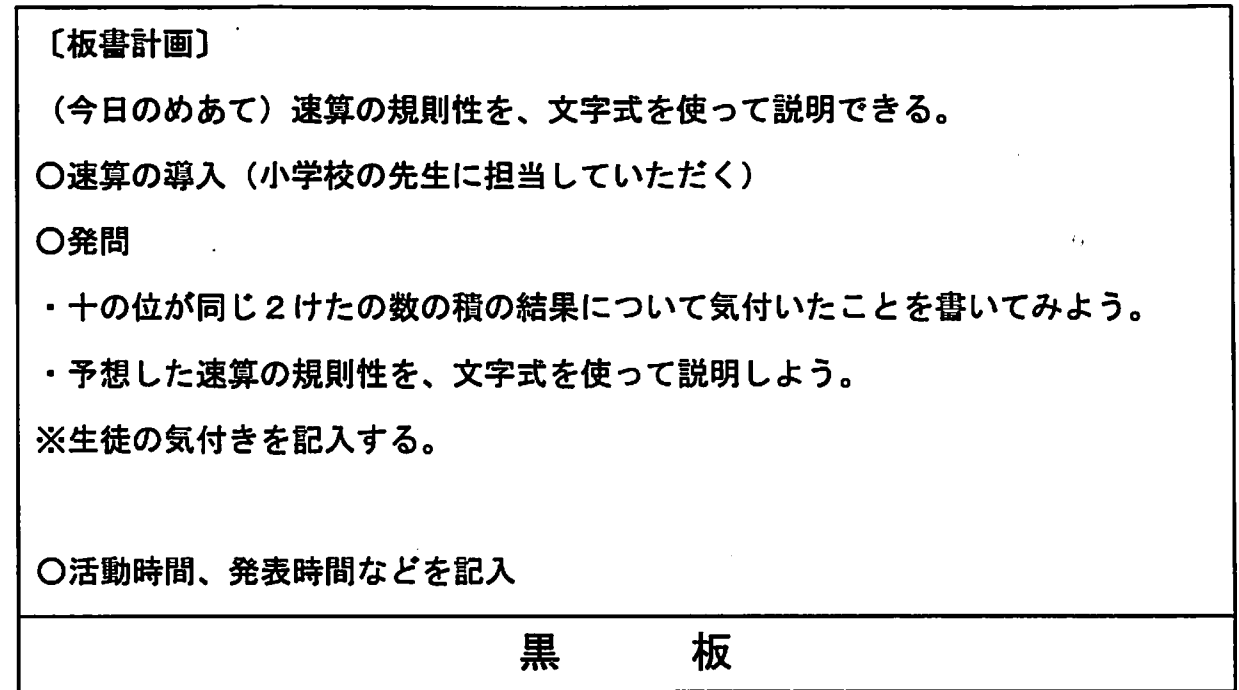
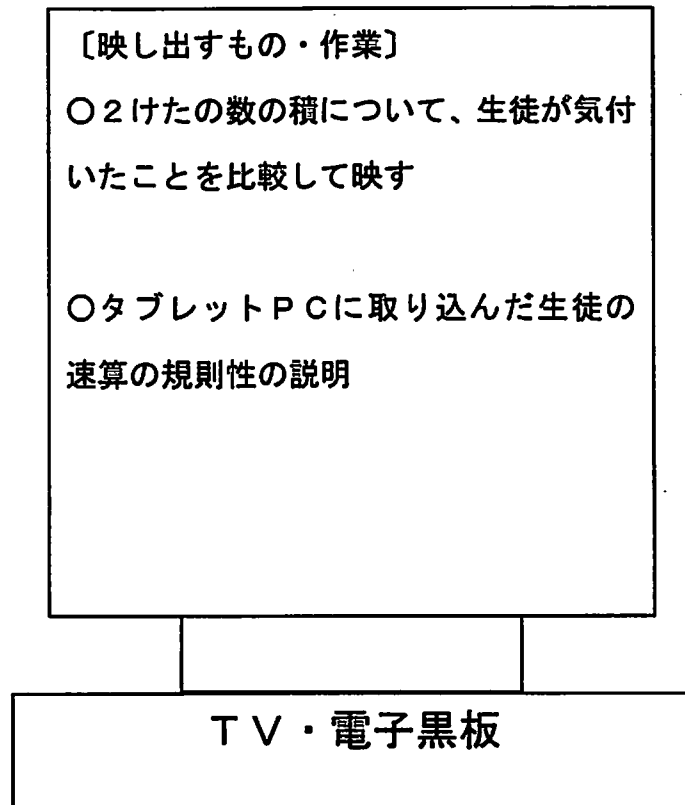
- ①教材 小学校3年生で学習する2位数同士のかけ算の発展的な内容「速算の規則性」を取り上げる。
- ②教員 導入で速算を実演する。また、グループ活動において机間指導を行う。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり、目的に応じて式を変形したり、式の意味を読み取ったりできる。(B)(C)</li> </ul> <p style="text-align: center;">A 基礎的・基本的な知識・技能    <b>B 思考力・判断力・表現力等</b>    <b>C 主体的に学習する態度</b></p>
活用するICT	実物投影機、パソコン、デジタル教科書、自作コンテンツ、タブレットPC
目標とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンを活用して、問題に集中できる環境をつくり、自分で解決しようとする意欲をもたせる。</li> <li>実物投影機を活用してワークシートを映し、生徒が自分のことばで計算の過程を説明しやすくなるようにする。</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの中で、自分の考えを説明し、伝え合うことができる。</li> <li>グループで出された意見を理解しながら説明している。</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 本時の目標を理解する。 2 導入問題を解く。 ・提示された2けたの掛け算をとく。 3 課題を設定する。	1 本時の目標を生徒に共通理解させる。 2 問題を提示する。 ・小学校の先生が速算を実演する。 3 本時の課題を提示する。	パソコン	◎自ら進んで取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ○何か規則性がありそうだ。 ◎問題を把握し、答えを求めようとしている。(関心・意欲・態度)
展開	4 計算の規則を予想する。 ・規則性の予想をワークシート、タブレットPCに記入する。 5 他の生徒の考え方を知る。自分の考え方を振り返る。 6 課題を解決する。 ・自分の考え方を記入し、自力解決に取り組む。 ・ワークシートに記入する。 7 考えを発表する。 8 考えを振り返る。 ・他の生徒の発表を聞いて、再思考する。	4 自分の考えを記入させる。 ・気付いたことを記入させる。 5 他の生徒の考え方から、自分の考え方の変った点や、考え方の分類を発表させる。 6 自力解決をさせる。 ・自分の考えをもたせ、ワークシートに記入させる。 7 自分で考えた内容を発表させる。 ・計算の過程でのポイントや手順をことばで表現させる。 8 自分の考えを振り返らせる。 ・他の生徒の発表を参考にさせる。	パソコン タブレットPC 生徒の予想を映し出す。 実物投影機 タブレットPC ワークシートを映し、生徒が自分の言葉で説明し伝えやすいようにする。 パソコン	◎本時の課題に意欲的に臨んでいる。(関心・意欲・態度) ○自分と同じ考え方だ。 ○自分と違う考え方があるんだ。 ○考え方がいくつかに分けることができそうだ。 ◎他の考え方を、課題解決に生かそうとしている。(関心・意欲・態度) ◎自分の考えを式やことばで表すことができる。(見方や考え方) ○そういう考え方もあるんだ。 ◎自分の考えを式やことばで表すことができている。(見方や考え方) ◎発表を聞き、自分の考えと比較しながら課題への理解を深めようとしている。(関心・意欲・態度)
まとめ	9 本時の学習内容をふりかえり、目標を達成できたか評価する。 ・自己評価、感想をワークシートに記入する。	9 本時の目標を振り返らせる。 ・自己評価、感想を記入させる。	実物投影機	◎自ら進んで取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>速算の規則を見つけ、文字を使って表わそうとしていたか。(C)</li> <li>自分の考えを発表するときに、自分なりのことばで文章にし、表現することができたか。(B)</li> </ul>			

## 8 板書とICT計画





## 第3学年 英語 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 3年B組 基礎クラス 計24名  
 授業者 片桐 雄樹  
 3年C組 基礎クラス 計24名  
 授業者 西巻 竜太

### 1 単元名

Review Reading① The Origin of World Heritage Site

### 2 単元のねらい

- (1) 長めの読み物を読むことで、英語の読解力を身に付ける。
- (2) 世界遺産運動の発端について学ぶことで、世界遺産に興味をもつ。
- (3) 既習した種々の文法事項について繰り返し学習を行い、知識・技能を身に付ける。

### 3 単元の評価基準

- (1) まとまった長さのある英語の長文を読む力の基礎が身に付いている。
- (2) 世界遺産運動の発端について理解し、関心をもっている。
- (3) 既習の語句や文法事項について再確認し、理解している。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観 (基礎クラス)

英語に興味があり、積極的に発言や質問をする生徒が多い。授業にも前向きに取り組む。ICTの活用により、意欲と同時に集中力も高めさせる。

#### (2) 教材観

長文はむずかしいと感じる生徒のために、世界遺産運動の発端や世界遺産の保護について関心をもたせながら、既習の語句や文法事項の定着と読解力を身に付けさせる。

#### (3) 指導観

題材への興味をもたせてから文章を読ませることで、集中して要点を正確に読み取るようとする意欲を高める。また、話し合い活動に積極的に参加させ、考えを深める。

### 5 単元の指導計画 (1時間扱い)

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
Review Reading1 The Origin of world Heritage site	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総語数 136 語のやや長めの内容を読み、おおよその要点をつかむ。</li> <li>・既習の語句や文法事項の復習をする。</li> <li>・世界遺産運動の発端について学び、遺産保護について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に、新出語句の発音や意味を確認させた後、本文を通読しておおまかな概要をとらえさせる。</li> </ul>

### 6 指導の工夫

#### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.265 の「対話文や説明文を読んで、その内容を読み取る活動」を参考に、本文の内容を確認するワークシートに取り組む。

#### (2) ICT

プレゼンテーションソフトを使用し、内容についてのクイズを解くことで、話題に興味をもち、集中して読み進められるようにする。また、デジタル教科書を使用して、基礎的・基本的な知識・技能の習得をサポートする。

#### (3) 小学校とのかかわり

①教材 プレゼンテーションソフトで作成した世界遺産についての教材を使用し、クイズを出題する。

②教員 読解の導入として、各国の世界遺産についての説明をクイズ形式で行う。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長めの読み物の内容を正確に読み取る力を身に付ける。(B)</li> <li>・世界遺産運動の発端について学ぶことで、世界遺産に関心をもつ。(C)</li> <li>・これまでに学習してきた英語による表現の知識について定着させる。(A)</li> </ul>
	A 基礎的・基本的な知識・技能 B 思考力・判断力・表現力等 C 主体的に学習する態度
活用する ICT	パソコン・自作コンテンツ・デジタル教科書
目標と ICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを活用したクイズを通して、世界遺産に関する興味をもたせる。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを活用し、英文の理解をサポートする。</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラルイントロダクションを聞いて分かったことを発表する。</li> <li>・本文の設問の答えをグループで話し合う。</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	1 英語であいさつし、日付や天気を聞く。 2 本時の目標を理解する。 3 英語の歌を歌う。 4 英文のディクテーションを行う。	1 明るくはっきりと発音させる。 2 本時の目標を生徒に共通理解させる。 ・黒板に本時の目標を記入する。 3 声を出して歌うように指示する。 4 同じ英文を3回ずつ繰り返し読み上げる。	パソコン	◎声に出して歌っている。(表現) ◎しっかり聞こうとしている。(関心・意欲・態度)
展開	5 世界遺産や国に関するクイズを行う。	5 世界遺産についての画像を提示する。 ・小学校の先生が説明する。	パソコン	○この世界遺産は初めて見た。 ◎英文を集中して聴こうとしている。(関心・意欲・態度)
	6 本文のオーラルイントロダクションを行う。	6 ピクチャーカードを用いて説明する。		○絵があるからイメージしやすいな。 ◎集中して説明を聞いている。(関心・意欲・態度)
	7 オーラルイントロダクションに関するQ&Aを行う。	7 ピクチャーカードを用いて分かりやすく尋ねる。	パソコン	○わからない単語があるな。 ◎しっかり聞いている。(関心・意欲・態度)
	8 本文を聞く。	8 静かに聞くよう指示する。	パソコン	○習った表現が多いな。 ◎大きな声で発表することができる。(表現)
	9 新出語句の練習をする。	9 意味を確認しながら発音練習をする。		◎正しい文法・発音で発表している。(表現) ○発音が難しいな。
	10 重要事項の確認をする。	10 ポイントを板書して説明する。		◎集中して聞いている。(関心・意欲・態度)
	11 本文の音読練習をする。	11 読む速さや意味のまとまりに気をつけながら練習する。	パソコン	○前に習った表現が多いな。 ◎大きな声で練習することができる。(表現)
	12 本文の内容に関する問題を解く。	12 「話し合いカード」を使ってグループで話し合い、グループ間で意見交換する。		○意味のまとまりで区切ると分かりやすいな。 ◎大きな声で練習することができる。(表現)
まとめ	13 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	13 意見交換を通して再思考し、基礎クラス用に作ったワークシートに取り組ませる。		◎ワークシートにしっかり取り組む。(関心・意欲・態度)
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の内容を正確に読み取ることができたか。(A)話し合いを通して考えを深めることができたか。(B)</li> <li>・世界遺産運動について、興味をもって考えることができたか。(C)</li> </ul>			



## 第3学年 英語 学習指導案

平成26年 1月24日(金) 5校時  
 駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
 3年BC組 発展クラス 計28名  
 授業者 相佐 妃沙乃

### 1 単元名

Review Reading① The Origin of World Heritage Site

### 2 単元のねらい

- (1) 長めの読み物を読むことで、英語の読解力を高める。
- (2) 世界遺産運動の発端について学ぶことで、世界遺産に関心をもつ。
- (3) 既習した種々の文法事項について確認し、知識・技能を確認する。

### 3 単元の評価基準

- (1) まとまった長さのある英語の長文を読む力を身に付けている。
- (2) 世界遺産運動の発端について理解し、関心が高まっている。
- (3) 既習の語句や文法事項について再確認し、理解している。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観 (発展クラス)

学習の理解が早く、前向きに取り組み、授業中の発言や表現活動にも積極的な生徒が多い。好奇心が旺盛で、幅広く様々なことに興味・関心をもつことができる。

#### (2) 教材観

世界遺産は生徒にとって関心の高い題材である。その保護について関心をもちながら読むことによって、長文に慣れると同時に、国際理解の観点をもたせたい。

#### (3) 指導観

「問い」を確認してから文章を読ませることで、要点をつかみやすくする。また、事前に内容の背景となる知識を教え、関心をもって読み進められるようにする。

### 5 単元の指導計画 (1時間扱い)

節・項	順	主な学習活動	指導上の留意点
Review Reading1 The Origin of world Heritage site	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総語数 136 語のやや長めの内容を読み、要点をつかむ。</li> <li>・既習の語句や文法事項の復習をする。</li> <li>・世界遺産運動の発端について学び、遺産保護について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に、新出語句の発音や意味を確認させた後、本文を通読して具体的な概要をとらえさせる。</li> </ul>

### 6 指導の工夫

#### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領 P.265 の「意味のまとまりを考えて、感想文、説明文等を音読する活動」を参考に、意味のまとまりごとに線を引かせて音読させる。

#### (2) ICT

プレゼンテーションソフトを使用し、内容についての背景となる知識を説明することで話題に関心をもち、考えを深めながら読み進められるようにする。

#### (3) 小学校とのかかわり

①教材 プレゼンテーションソフトで作成した世界遺産についての教材を使用し、説明する。

②教員 読解の導入として、各国の世界遺産について英語を交えて紹介する。

## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長めの読み物を読むことで、英語の読解力をつける。(B)</li> <li>・世界遺産運動の発端について学ぶことで、世界遺産についての理解を深める。(B)</li> </ul>
活用するICT	A 基礎的・基本的な知識・技能 <b>B 思考力・判断力・表現力等</b> C 主体的に学習する態度
活用するICT	パソコン・自作コンテンツ・CDプレーヤー
目標とICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを活用し、背景となる知識を説明することで、題材から内容を深く読み取れるようにする。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを活用し、英文の理解をサポートする。</li> </ul>
言語活動	・ペアで話し合い、設問の解答をまとめる。

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価	
導入	1 本時の目標を理解する。 2 小テストを行う。 3 次回の小テストの勉強をする。	1 本時の目標を生徒に共通理解させる。 ・本時の目標を板書する。 2 重要動詞の小テストを実施する。 3 音読練習をペアで行わせる。	パソコン	◎小テストの学習に積極的に取り組む。 (関心・意欲・態度)	
展開	4 各国の世界遺産を説明する英文を聴き、各国の世界遺産について考える。 5 本文についての Oral Introductionをおこなう。 6 新出語句の意味の確認と発音練習をする。 7 設問に目を通す。	4 小学校の教員が、どの国の何という世界遺産か質問する。 5 プレゼンテーションソフトを使用し作成した画像とともに説明する。 6 発音の難しい単語は繰り返し練習させる。 7 答えを捜しながら読ませる。 ・設問をしっかりと理解させる。	パソコン パソコン CDプレーヤー	◎世界遺産にはいろいろあるんだ。 ◎英文を集中して聴く。 (関心・意欲・態度) ◎画像があるから理解しやすい。 ◎正しく発音ができる。(表現) ◎国名の発音は日本語とちがうな。	
	8 本文を読み、設問の答えを考える。 9 設問の答え合わせをする。	8 本文中の答えの部分に下線を引きながら読むようにさせる。 9 下線を引いたところをペアで話し合い、日本語にまとめ、発表させる。		◎下線を引きながら英文を集中して読む。(関心・意欲・態度) ◎設問と似たような英文があるな。この近くに答えがあるかな。 ◎設問の答えを本文から正しく読み取ることができる。(知識・理解) ◎問いについて意欲的に考える。(関心・意欲・態度) ◎この語句は前に習った気がする。	
	10 語句や文法の確認をする。 11 本文の音声聞き、繰り返す。 12 間を開けて読むところを考え、線を入れて再度ペアで音読する。	10 語句や文法について質問から、使用方法を考えさせる。 11 間が開いているところ、音の強弱を意識して音読させる。 12 意味のまとまりを意識させ、線を引いたところは少し間を開けて読むようにさせる。 ・お互いの発音や間の取り方について評価や助言をしようとする。		◎意味のまとまりを意識し音読する。(関心・意欲・態度) ◎意味のかたまりで区切って読んでもらおうと、理解しやすいな。	
	13 もう一度英文を読み、文の流れを正しく読み取る。 14 問題演習に取り組む。	13 本文を4~5文で区切ったカードを、内容を考えながら正しく並べる。 ・ペアで話し合いながら正解を考えるようにさせる。 14 本文の重要表現や読解についてのワークシートの問題を解かせる。		◎この文章はどの文の後に続ければいいのかな。 ◎重要表現をここでしっかり覚えておこう。	
	まとめ	15 本時の学習内容を振り返り、目標を達成できたか評価する。	15 世界遺産について分かったこと、考えたことをカードに記入させる。		◎授業の振り返りをきちんと記入する。 (関心・意欲・態度)
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の内容を正確に読み取り、自分の言葉で表現することができたか。(B)</li> <li>・世界遺産運動について考えを深めることができたか。(B)</li> </ul>			

## 8 板書とICT計画

〔映し出すもの・作業〕

- 小テスト用練習問題
- 世界遺産についての写真資料
- 本文設問の解答例

TV・電子黒板

〔板書計画〕

Friday, January 24th

○めあて「長文を読み解く力をつける。」

次回の小テスト範囲

「世界遺産運動について考える。」

《The Origin of World Heritage Sites》

始まり 世界遺産

○語句の確認

- ・ (L9) a campaign to protect
- ・ (L10) take part in = join
- ・ (L10) surprising ㊦ 「驚くべき」 a surprising fact「驚くべき事実」
- ・ (L13) were separated into  
← separate A into B 「AをBの状態に分ける」
- ・ (L16) piece by piece 「1つ1つ」  
㊦ one by one 「1つずつ」 little by little 「少しずつ」

黒板

〔映し出すもの・作業〕

- 
- 
- 

タブレット型PC

## 聞こえの学級（第1学年） 国語 学習指導案

平成26年 1月24日（金）5校時  
駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校  
聞こえの学級 1年生1名  
授業者 武井 明希子

### 1 単元名

知識の樹木 — 「音遊び」抄

### 2 単元のねらい

- (1) 作者の体験と体験から得た知識を読み取り、「認識」の方法について考える。
- (2) 自分の体験を通じて気付いたことを考え、表現の仕方を理解する。

### 3 単元の評価基準

- (1) 作者の体験や、そこから得た知識を読み取り、「認識」の方法について考えをまとめ、表現することができる。
- (2) 自分の体験を通じて気づいたことを考え、表現の仕方が理解できている。

### 4 単元の指導

#### (1) 生徒観

国語の授業に限らず、自分の考えや気持ちをことばで表すのが苦手である。聴覚に障害がある生徒なので、人前で話すことに抵抗があるのかもしれないが、生活の中で自分の意見を相手に伝える力は必ず必要になってくる。そこで、文章を読んで感じたことや、生徒自身の体験から考えたことなどを、自分のことばでまとめ、発表できるように支援する。

#### (2) 教材観

この随想には、目が見えない作者が触角や嗅覚、味覚、聴覚を総動員し、時間をかけて体験して得た知識は作者にとってかけがえのないものである、ということが書かれている。このような体験は、程度の差はあっても誰にでも存在するものであり、日常それを自覚することは少ない。作者の体験的認識論を理解しつつ、それを学習者の体験を想起させる契機とし、自分自身の「認識」の形成について振り返らせる。

#### (3) 指導観

作者の表現に学びつつ、自らの体験と「認識」の関係を表現させる。そのことによって、体験について表現する方法、考えたことを表現する方法を身に付け、自らの深い体験に根差しながら自分自身のことばで「認識」を形成し、表現することを経験させたい。

## 5 単元の指導計画（1時間扱い）

節・項	時数	主な学習活動	指導上の留意点
命の鎖	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者や自分の体験を踏まえ、「認識」について考える。</li> <li>・体験から気付いたことの表現の仕方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の生活を振り返らせ、作者の体験と重なるところがないか、考えさせる。</li> <li>・作者の体験や、そこから得た知識を読み取り、認識の方法について考えを深める。</li> <li>・自分の体験を通じて気付いたことを考え、表現の仕方を理解させる。</li> </ul>

## 6 指導の工夫

### (1) 世田谷区教育要領

世田谷区教育要領P.64 目標(1)「目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度」「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度」の育成をめざして指導する。

### (2) ICT

デジ教科書を利用して、音読の際にどこを読んでいるか分かるように支援する。また、言葉だけでは想像がむずかしいものに対して、実物投影機を利用して、明確にイメージをもたせるようにする。

### (3) 小学校とのかかわり

小学校の国語の教科書に「読んで感じたことを伝え合おう」という教材があり、考えたことを自分のことばで伝えることは既習内容である。本時では小学校で学んだことを確認しながら、自分のことばで相手に考えを伝えることを目標とする。



## 7 本時の目標・展開・評価

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の体験や、そこから得た知識を読み取り、認識の方法について考えを深める。(B)</li> <li>・自分の体験を通じて気づいたことを考え、表現の仕方を理解する。(B)</li> </ul>
	<p>A 基礎的・基本的な知識・技能    B <b>思考力・判断力・表現力等</b>    C 主体的に学習する態度</p>
活用する ICT	パソコン、デジ教科書、実物投影機、プロジェクター
目標と ICT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジ教科書を利用して、音読の際どこを読んでいるか理解させる。</li> <li>・実物投影機を利用して、言葉だけでは想像しづらいものに対して、イメージをもたせる。</li> </ul>
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や考えをことばでまとめる。</li> </ul>

	学習内容・活動	学習指導・言語活動・留意点	ICT	○予想される生徒の反応 ◎評価
導入	<p>1 本時の目標を理解する。</p> <p>2 目をつむっていくつかの物を触り、それが何か当てる。</p> <p>3 これから読む文章が、認識のあり方についてのものであることを知る。</p> <p>4 全文を通読する。</p>	<p>1 本時の目標を生徒に共通理解させる。</p> <p>2 なぜそう考えたのか、発表させる。 ・発表内容に、理由を明確にさせる。</p> <p>3 自分がどのようにして世界を認識しているのか、不思議だという感覚をもたせる。</p> <p>4 学習者と交互に全文を通読する。</p>	<p>パソコン</p>	<p>◎「目が見えない」体験を通して、興味をもって学習する。 (関心・意欲) ○これはいったい何だろう。</p> <p>○「認識」って、何だろう。</p> <p>○目が見えない人はどんなことを考えているのだろう。</p>
展開	<p>5 「実体験を重視する」とあるが、どのような実体験が挙げられているか。それは何を学ぶためのものだったか。</p> <p>6 「私はいつの間にかこんな自然観察方法を学んだらしいのだ。」とあるが、それはどのような方法か考える。</p> <p>7 「おもしろいと思ったこと」とは、どんなことか。</p> <p>8 筆者が言っている「知識の樹木」とはどういう意味か、筆者の体験を踏まえて説明しよう。</p>	<p>5 二つの体験を挙げさせる。 ・挙げられない場合は、本文の該当箇所を指示する。</p> <p>6 水の抵抗の標準値を体で覚えること、温泉で同じ実験をするとわかることの間を整理し、それぞれに対応する抽象化された内容を補って説明する。</p> <p>7 実体験に注目させて読み取らせる。</p> <p>8 「根から上方にたどると体系的に分かる」ということと、「教育の積み重ねとしての種が樹木に育つようにこれから花開く」という二つの観点を整理する。</p>	<p>プロジェクター</p> <p>実物投影機</p>	<p>◎筆者の一つ一つの体験と、そこから得た「認識」を関連付けて理解している。 (読む)</p> <p>○目が見えない人がそんなふうには認識していくのか。</p> <p>◎題名「知識の樹木」の意味やそこに込められた筆者の思いを捉えて、説明する。</p> <p>◎筆者や自分の体験を踏まえて認識について考えようとしている。 (関心・意欲)</p> <p>○どうやって体験をまとめようかな。</p>
まとめ	<p>9 本時の学習内容を振り返り、認識の方法について考えたことをまとめ、目標を達成できたか評価してみよう。</p>	<p>9 本時のまとめをする。 ・ワークシートに記入させる。</p>		<p>◎「目が見えない」体験から得た認識をまとめている。(書く)</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の体験や、そこから得た知識を読み取り、認識の方法について考えを深めることができたか。(B)</li> <li>・自分の体験を通じて気づいたことを考え、表現の仕方を理解することができたか。(B)</li> </ul>			

## 8 板書とICT計画

